

自動車及汽船ノ乗客ニ左ノ區別ニ依リ
之ヲ課ス

五十糸未滿

一等

六錢

二等

三錢

五十糸以上

一等

十錢

二等

五錢

三等

二錢

百糸以上

一等

三十錢

二等

十五錢

三等

五錢

百五十糸以上

一等

六十錢

二等

三十錢

三等

十錢

三百糸以上

一等

一圓二十錢

二等

六十錢

三等

二十錢

五百糸以上

一等

一圓八十錢

二等

九十錢

三等

三十錢

八百糸以上

一等

二圓四十錢

二等

四十錢

三等

四十錢

回數乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於
テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
回數二十回以

下ナルトキ 前項稅額ノ五倍

回數五十回以

下ナルトキ 前項稅額ノ十倍

回數五十回ヲ 超ユルトキ 前項稅額ノ二十倍
定期乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於
テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
契約期間一月

内ナルトキ 第一項稅額ノ五倍
契約期間三月 内ナルトキ 第一項稅額ノ十倍
契約期間六月 内ナルトキ 第一項稅額ノ二十倍
ヲ超ユルトキ 第一項稅額ノ三十倍
團體乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於
テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
人員百人以下

ナルトキ 第一項稅額ノ五倍
人員二百人以 下ナルトキ 第一項稅額ノ十倍
人員二百人ヲ 超ユルトキ 第一項稅額ノ二十倍
貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於
テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
一等及二等 貸切運賃ノ百分ノ十
三等 貸切運賃ノ百分ノ五

ナルトキ 第一項稅額ノ五倍
人員二百人以 下ナルトキ 第一項稅額ノ十倍
人員二百人ヲ 超ユルトキ 第一項稅額ノ二十倍
貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於
テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
一等及二等 貸切運賃ノ百分ノ十
三等 貸切運賃ノ百分ノ五

ナルトキ 第一項稅額ノ五倍
人員二百人以 下ナルトキ 第一項稅額ノ十倍
人員二百人ヲ 超ユルトキ 第一項稅額ノ二十倍
貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於
テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
一等及二等 貸切運賃ノ百分ノ十
三等 貸切運賃ノ百分ノ五

ナルトキ 第一項稅額ノ五倍
人員二百人以 下ナルトキ 第一項稅額ノ十倍
人員二百人ヲ 超ユルトキ 第一項稅額ノ二十倍
貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於
テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
一等及二等 貸切運賃ノ百分ノ十
三等 貸切運賃ノ百分ノ五

ナルトキ 第一項稅額ノ五倍
人員二百人以 下ナルトキ 第一項稅額ノ十倍
人員二百人ヲ 超ユルトキ 第一項稅額ノ二十倍
貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於
テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
一等及二等 貸切運賃ノ百分ノ十
三等 貸切運賃ノ百分ノ五

ナルトキ 第一項稅額ノ五倍
人員二百人以 下ナルトキ 第一項稅額ノ十倍
人員二百人ヲ 超ユルトキ 第一項稅額ノ二十倍
貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於
テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
一等及二等 貸切運賃ノ百分ノ十
三等 貸切運賃ノ百分ノ五

ナルトキ 第一項稅額ノ五倍
人員二百人以 下ナルトキ 第一項稅額ノ十倍
人員二百人ヲ 超ユルトキ 第一項稅額ノ二十倍
貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於
テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
一等及二等 貸切運賃ノ百分ノ十
三等 貸切運賃ノ百分ノ五

ナルトキ 第一項稅額ノ五倍
人員二百人以 下ナルトキ 第一項稅額ノ十倍
人員二百人ヲ 超ユルトキ 第一項稅額ノ二十倍
貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於
テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
一等及二等 貸切運賃ノ百分ノ十
三等 貸切運賃ノ百分ノ五

ナルトキ 第一項稅額ノ五倍
人員二百人以 下ナルトキ 第一項稅額ノ十倍
人員二百人ヲ 超ユルトキ 第一項稅額ノ二十倍
貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於
テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
一等及二等 貸切運賃ノ百分ノ十
三等 貸切運賃ノ百分ノ五

ナルトキ 第一項稅額ノ五倍
人員二百人以 下ナルトキ 第一項稅額ノ十倍
人員二百人ヲ 超ユルトキ 第一項稅額ノ二十倍
貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於
テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
一等及二等 貸切運賃ノ百分ノ十
三等 貸切運賃ノ百分ノ五

ナルトキ 第一項稅額ノ五倍
人員二百人以 下ナルトキ 第一項稅額ノ十倍
人員二百人ヲ 超ユルトキ 第一項稅額ノ二十倍
貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於
テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
一等及二等 貸切運賃ノ百分ノ十
三等 貸切運賃ノ百分ノ五

ナルトキ 第一項稅額ノ五倍
人員二百人以 下ナルトキ 第一項稅額ノ十倍
人員二百人ヲ 超ユルトキ 第一項稅額ノ二十倍
貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於
テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
一等及二等 貸切運賃ノ百分ノ十
三等 貸切運賃ノ百分ノ五

ナルトキ 第一項稅額ノ五倍
人員二百人以 下ナルトキ 第一項稅額ノ十倍
人員二百人ヲ 超ユルトキ 第一項稅額ノ二十倍
貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於
テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
一等及二等 貸切運賃ノ百分ノ十
三等 貸切運賃ノ百分ノ五

ナルトキ 第一項稅額ノ五倍
人員二百人以 下ナルトキ 第一項稅額ノ十倍
人員二百人ヲ 超ユルトキ 第一項稅額ノ二十倍
貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於
テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
一等及二等 貸切運賃ノ百分ノ十
三等 貸切運賃ノ百分ノ五

ナルトキ 第一項稅額ノ五倍
人員二百人以 下ナルトキ 第一項稅額ノ十倍
人員二百人ヲ 超ユルトキ 第一項稅額ノ二十倍
貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於
テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
一等及二等 貸切運賃ノ百分ノ十
三等 貸切運賃ノ百分ノ五

ナルトキ 第一項稅額ノ五倍
人員二百人以 下ナルトキ 第一項稅額ノ十倍
人員二百人ヲ 超ユルトキ 第一項稅額ノ二十倍
貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於
テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
一等及二等 貸切運賃ノ百分ノ十
三等 貸切運賃ノ百分ノ五

ナルトキ 第一項稅額ノ五倍
人員二百人以 下ナルトキ 第一項稅額ノ十倍
人員二百人ヲ 超ユルトキ 第一項稅額ノ二十倍
貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於
テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
一等及二等 貸切運賃ノ百分ノ十
三等 貸切運賃ノ百分ノ五

テ命令ノ定ムモノナルトキ
ヲ爲シタルトキ

第二十一條 左ノ各號ノ一一該當スルト
キハ第十九條第一項及前條第一號ノ課
車船區間ノ糸程ノ計算ハ命令ヲ以テ之
ヲ定ム

一 往復乗車船又ハ廻遊乗車船ノ契約
ノ場所ニ入場スル者又ハ第二種ノ場所
ノ設備ヲ利用スル者ニ之ヲ課ス

二 往復乗車船又ハ廻遊乗車船ノ契約
ノ場所ニ入場スル者又ハ第二種ノ場所
ノ設備ヲ利用スル者ニ之ヲ課ス

三 前二號ニ掲タルモノヲ除クノ外
一定ノ催物又ハ設備ヲ爲シ公衆ノ
命令ヲ以テ之ヲ定ムモノ

四 演劇、活動寫眞、演藝又ハ觀物
(相撲、野球、拳闘其ノ他)競技ニ
シテ公衆ノ觀覽ニ供スルコトヲ目
的トスルモノヲ含ム)ヲ催ス場所

五 競馬場
六 觀覽又ハ遊戯ニ供スル場所ニシテ
ナキ車船ニ付貸切乗車船ノ契約ヲ爲シ
タル場合ニ於ケル第十九條第六項ノ乘
客定員數ニ付亦同ジ

七 第二十四條 通行稅ハ汽車、電車、乗合
自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者
(以下運輸業者ト稱ス)運賃領收ノ際之
ヲ徵收翌月十日迄政ニ府ニ納ムヘシ
特別ノ事情アル運輸業者ニ付テハ前項
ノ納期限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

八 第二十三條 通行稅ハ汽車、電車、乗合
自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營マントスル者
及運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣セ
ントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其
ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止
セズ

九 第二十九條 第一種ノ催物(第一種ノ場
所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀
物、競馬其ノ他)ニ供スル者ニ之ヲ課ス

十 第二十八條 第一種ノ場所ノ入場料ガ一
人一回十九錢ニ満タザル場合ニハ之ヲ適
用セズ

十一 第二十九條 第二種ノ催物(第一種ノ場
所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀
物、競馬其ノ他)ニ供スル者ニ之ヲ課ス

十二 第二十九條 第二種ノ催物(第一種ノ場
所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀
物、競馬其ノ他)ニ供スル者ニ之ヲ課ス

十三 第二十九條 第二種ノ催物(第一種ノ場
所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀
物、競馬其ノ他)ニ供スル者ニ之ヲ課ス

十四 第二十九條 第二種ノ催物(第一種ノ場
所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀
物、競馬其ノ他)ニ供スル者ニ之ヲ課ス

十五 第二十九條 第二種ノ催物(第一種ノ場
所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀
物、競馬其ノ他)ニ供スル者ニ之ヲ課ス

十六 第二十九條 第二種ノ催物(第一種ノ場
所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀
物、競馬其ノ他)ニ供スル者ニ之ヲ課ス

十七 第二十九條 第二種ノ催物(第一種ノ場
所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀
物、競馬其ノ他)ニ供スル者ニ之ヲ課ス

十八 第二十九條 第二種ノ催物(第一種ノ場
所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀
物、競馬其ノ他)ニ供スル者ニ之ヲ課ス

十九 第二十九條 第二種ノ催物(第一種ノ場
所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀
物、競馬其ノ他)ニ供スル者ニ之ヲ課ス

リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府
ニ申告スベシ

ノ設備ヲ利用スル者ニ之ヲ課ス

ルモノト看做ス

第四十五條 第一種ノ物品ノ小賣業者ハ

毎月其ノ販賣シタル物品ニ付其ノ品名

名毎ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書

ヲ、第三種ノ物品ノ製造者ハ毎月其ノ

製造場ヨリ移出シタル物品ニ付其ノ品

名毎ニ數量ヲ記載シタル申告書ヲ翌月

十日迄ニ政府ニ提出スベシ

第一種、第二種又ハ第三種ノ物品

税地域ヨリ引取ル者ハ命令ヲ以テ定ム

ル場合ヲ除クノ外引取ノ際其ノ物品ニ

付前項ニ準ズル申告書ヲ政府ニ提出ス

ベシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ

申告ヲ不相當ト認メタルトキハ政府ハ

其ノ課稅標準額ヲ決定ス

第四十六條 小賣業者ガ其ノ販賣シタル

第一種ノ物品ノ返還ヲ受ケタル場合ニ

於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ返還ヲ受

ケタル月分以降ノ課稅標準額ヨリ其ノ

物品ノ價格ヲ控除ス製造場ヨリ移出シ

タル第三種ノ物品ヲ同一製造場内ニ戻

入シタル場合亦同ジ

製造場ヨリ移出シタル第三種ノ物品ヲ

同一製造場内ニ戻入シ又ハ酒類ヲ製造

場外ヨリ移入シタル場合ニ於テハ命令

ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品ヲ製造場ヨ

ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ移出シ又ハ保

稅地域ヨリ引取ル物品ニシテ左ノ各號

ノ一ニ該當スルモノニ付テハ物品稅ヲ

免除ス

第一 第二種ノ物品ノ製造ノ用ニ供スル

ノ定ムル所ニ依リ物品稅ヲ免除ス
ヲ提供シタルトキハ一月内物品稅ノ徵
收ヲ猶豫スルコトヲ得
第四十八條 命令ノ定ムル所ニ依リ政府
ノ承認ヲ受ケ他ノ製造場又ハ貯置場ニ
移入スル目的ヲ以テ製造場ヨリ移出シ
又ハ保稅地域ヨリ引取ル第二種ノ物品
又ハ燐寸ニ付テハ第四十一條ノ規定ヲ
適用セズ

前項ノ場合ニ於テハ移出先又ハ引取先
ヲ以テ製造場ト看做シ移出先又ハ引取
先ノ營業者ヲ以テ製造者ト看做ス
第一項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル
期間内ニ移出先又ハ引取先ニ移入セラ
レタルコトノ證明ナキモノニ付テハ製
造者又ハ引取人ヨリ直ニ其ノ物品稅ヲ
徵收ス但シ災害其ノ他にムコトヲ得ザ
ル事由ニ因リ滅失シタルモノニ付政府
ノ承認ヲ受ケタルトキハ物品稅ヲ免除
ス

第五十一條 第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營
マントスル者又ハ第二種ノ物品若ハ燐
寸ヲ製造セントスル者ハ命令ノ定ム
所ニ依リ政府ニ申告スベシ其ノ小賣業
又ハ製造ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ
證明ナキモノニ付之ヲ準用ス

第五十二條 第一種、第二種又ハ第三種
ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ハ命令ノ定
ムル所ニ依リ其ノ製造、貯藏又ハ販賣
ニ關スル事實ヲ帳簿ニ記載スベシ

第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若
ハ第三種ノ物品ノ製造者ハ命令ノ定ム
ル所ニ依リ其ノ製造又ハ販賣ニ關シ必
要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第五十三條 第十四條、第十七條、第二
十三條、第三十條又ハ第三十六條ノ規
定ニ依リ徵收スペキ稅金ヲ徵收セザル
トキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セ
ザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ各
其ノ徵收義務者ヨリ徵收ス

第五十四條 収稅官吏ハ通行稅ニ付運輸
業者又ハ運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ
販賣スル者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ
業務ニ關スル帳簿書類ヲ検査スルコト
ヲ得

ノ定ムル所ニ依リ其ノ用途ヲ變更セラレタル
モノニ付之ヲ準用ス
第四十七條 物品稅ハ毎月分ヲ翌月末日
迄ニ納付スベシ但シ第四十一條但書ノ
場合ニ於テハ引取ノ際之ヲ納付スベシ
第五十條 左ニ掲タル物品ニ付テハ命令
ノ定ムル所ニ依リ其ノ容器ニ充填シ又ハ改裝
賣ノ爲化粧品ヲ容器ニ充填シ又ハ改裝
ヲ販賣スルモノト看做ス
スルトキハ之ヲ化粧品ノ製造ト看做ス
シタルトキハ之ヲ製造場内ニ於テ飲用
第四十四條 酒類ヲ製造場以外ノ場所ニ於テ販
賣ノ爲化粧品ヲ容器ニ充填シ又ハ改裝
ヲ販賣スルモノト看做ス
シタルトキハ之ヲ製造場ヨリ移出シタル
第一 第二種ノ物品ノ製造ノ用ニ供スル

ノ定ムル所ニ依リ其ノ容器ニ充填シ又ハ改裝
賣ノ爲化粧品ヲ容器ニ充填シ又ハ改裝
ヲ販賣スルモノト看做ス
スルトキハ之ヲ化粧品ノ製造ト看做ス
シタルトキハ之ヲ製造場ヨリ移出シタル
第一 第二種ノ物品ノ製造ノ用ニ供スル

ノ定ムル所ニ依リ物品稅ヲ免除ス
一 輸出スルモノ

二 學術研究用ニ供スルモノ

三 其ノ他命令ヲ以テ定ムル用途ニ供
スルモノ

精含有飲料稅法ノ適用ヲ受クル
モノ 一石ニ付 七圓

第四十條 前條ノ價格ハ第一種ノ物品ニ
付テハ小賣業者ノ販賣價格、第二種ノ
物品ニ付テハ製造場ヨリ移出スル時ノ
價格トス但シ保稅地域ヨリ引取ラル
第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ引取人
ヨリ稅金ヲ徵收スルモノニ付テハ引取
ノ際ニ於ケル價格トス

前項ノ價格及燐寸ノ本數ノ計算ニ關シ
必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 物品稅ハ第一種ノ物品ニ付
テハ販賣セラレタル物品ノ價格ニ應ジ
小賣業者ヨリ、第二種又ハ第三種ノ物
品ニ付テハ製造場ヨリ移出セラレタル
物品ノ價格又ハ數量ニ應ジ製造者ヨリ
之ヲ徵收ス但シ保稅地域ヨリ引取ラル
物品ニ付テハ命令ヲ以テ定ムル場合
ヲ除クノ外引取ラレタル物品ノ價格又
ハ數量ニ應ジ引取人ヨリ之ヲ徵收ス

第四十二條 物品稅ハ第一種第十四號ニ
掲タル物品ニ付テハ其ノ物品ガ入札其
ノ他競争ノ方法ニ依リ賣買セラル場合
ニシテ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限り
之ヲ課ス

前項ノ場合ニ於テハ其ノ札元又ハニ
準ズベキ者ガ小賣業者トシテ當該物品
ヲ販賣スルモノト看做ス

第四十三條 製造場以外ノ場所ニ於テ販
賣ノ爲化粧品ヲ容器ニ充填シ又ハ改裝
ヲ販賣スルモノト看做ス

第四十四條 酒類ヲ製造場内ニ於テ飲用
シタルトキハ之ヲ製造場ヨリ移出シタル

ノ場所ノ經營者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得。前項ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス。

收稅官吏ハ物品稅ニ付第一種、第二種又ハ第三種ノ物品製造者又ハ販賣者又ハ販賣者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ左ニ掲タル物件ニ付検査ヲ爲シ若ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得。

一 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品製造者又ハ販賣者又ハ第三種ノ物品製造者又ハ販賣者ニシテ製造者又ハ販賣者ノ所持スルモノ

二 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル一切ノ帳簿書類

三 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

四 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

五 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

六 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

七 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

八 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

九 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

十 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

十一 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

十二 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

十三 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

十四 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

一 政府ニ申告セズシテ第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營シタル者リ又ハ詐リタル者

二 第四十五條ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ第五十八條左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第二十五條第一項、第三十二條第一項又ハ第五十二條第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隠匿シタル者

二 第二十五條第二項、第三十二條第二項又ハ第五十二條第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三 第五十四條第一項、第二項又ハ第四項ノ規定ニ依ル收稅官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨げ若ハ忌避シタル者

四 第五十九條第五十五條及第五十六條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

第五十五條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ヲ逋脱シタル者ハ其ノ逋脱シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第五十六條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ物品稅ヲ逋脱シ又ハ逋脱セントシタル者ハ其ノ逋脱シ又ハ逋脱セントシタル稅金ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ罰金額ガ二十圓ニ満タザルトキハ之ヲ二十圓トス第五十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十條 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法中物品稅ニ關スル規定ニ違反シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第六十一條 北海道、府縣、市町村其ノ

十一日以前ニ販賣、製造場ヨリノ移出又ハ保稅地域ヨリノ引取ヲ爲シタル北支事件特別稅法第二十條ニ掲タル第一種又ハ第二種ノ物品ニ對スル物品特別稅其ノ他昭和十三年三月三十一日以前ニ於テ賦課シ若ハ賦課スペカリシ又ハ徵收シ若ハ徵收スペカリシ北支事件特別稅ニ關シテハ仍舊法ニ依ル前項ノ規定ニ依ル北支事件特別稅ノ收入ハ之ヲ臨時軍事費特別會計ノ歲入トス

前項ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス

第六十二條 政府ハ當分ノ内酒造組合法ニ依リ設立シタル酒造組合中央會ニ對シ徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第六十三條 本法ニ於テ保稅地域ト稱スルハ關稅法ノ定ムル所ニ依ル

附 則

第六十四條 本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十五條 北支事件特別稅法ハ之ヲ廢止ス

法人ノ昭和十三年三月三十一日以前ニ終了シタル各事業年度分ノ所得特別稅及臨時利得特別稅、昭和十三年三月三

第六十六條 所得稅中ノ第二種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ之ヲ得

第六十七條 法人ノ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル各事業年度分ノ所得ニ對スル所稅及支拂期ノ昭和十三年四月一日以後ニ在ル貸付信託ノ利益ニ對スル所得稅ニ付テハ北支事件特別稅中ノ第二種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ之ヲ得

往事業年度ノ平均利益トシ第一次事業年度ガ昭和十二年一月一日以後ニ於テ終了シタル場合ニ於テハ其ノ法人ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ甲既往事業年度ノ平均利益トシ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ乙既往事業年度ノ平均利益トス

三 現事業年度ノ資本金額ガ甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ増減アルトキハ比較セラレタル既往事業年度ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合ヲ現事業年度ノ資本金額ニ乘ジテ算出シタル金額ヲ以テ其ノ既往事業年度ノ平均利益トス此ノ場合ニ於テ第一號ノ規定ヲ適用スルニ當リテハ現事業年度ノ資本金額ヲ以テ其ノ既往事業年度ノ平均資本金額ト看做ス

四 現事業年度ノ期間ガ甲既往事業年度ニ屬スル各事業年度又ハ乙既往事業年度ニ屬スル各事業年度ノ期間ト異ルトキハ既往ノ各事業年度ノ利益ハ現事業年度ノ月數ノ既往各事業年度ノ月數ニ對スル割合ニ依リ之ヲ換算ス

四條ノ三 法人ノ甲種利得ニシテ臨時利得税ヲ課セラルル乙種利得ニ屬スルモノアルトキハ其ノ部分ハ之ヲ甲種利得セズ但シ前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲得ヨリ控除ス

四條ノ四 法人ノ甲種利得又ハ乙種利得ノ金額年千圓未満ナルトキハ甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得税ヲモノアルトキハ其ノ部分ハ之ヲ甲種利得セズ但シ前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲

シタル爲甲種利得ノ金額ガ年千圓未満ト爲ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第七條中「既往事業年度」ヲ「甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度」ニ改ム
第九條 個人ノ利益ガ昭和六年以前三年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ個人ノ甲種利得トシ昭和十二年以前三年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ個人ノ乙種利得トス
第九條ノ二 前條ノ規定ニ依リ利得ヲ計算スル場合ニ於テ昭和六年以前三年ノ平均利益ガ三千圓未満ナルトキハ三千圓、昭和十一年以前三年ノ平均利益ガ五千圓未満ナルトキハ五千圓ヲ以テ各其ノ平均利益トス
第九條ノ三 個人ノ甲種利得ニシテ臨時利得税ヲ課セラルル乙種利得ニ屬スルモノノアルトキハ其ノ部分ハ之ヲ甲種利得ヨリ控除ス
第九條ノ四 個人ノ利益ガ一萬圓未満ナルトキハ甲種利得ノ金額ヨリ一千圓ヲ一萬五千圓未満ナルトキハ乙種利得ノ金額ヨリ二千圓ヲ控除ス
個人ノ利益ガ一萬圓以上ナル場合ニ於テ甲種利得ノ金額千圓未満ナルトキ又ハ一萬五千圓以上ナル場合ニ於テ乙種利得ノ金額千圓未満ナルトキハ甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得税ヲ課セズ但シ前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル爲甲種利得ノ金額ガ千圓未満ト爲ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第十條ノ二 營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムベキ事實アル個人ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ前營業者ノ平均利益

<p>第十一條 個人ノ營業ノ時間ガ一年未滿ナル場合ニ於ケル平均利益ノ計算ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム</p> <p>個人ノ利益ガ六千圓未滿ナルトキハ甲種利得ニ對スル、一萬圓未滿ナルトキハ乙種利得ニ對スル臨時利得ヲ課セズ</p>				
<p>第十四條 法人ノ臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス</p>				
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33.33%; padding: 5px;">甲種利得</td> <td style="width: 33.33%; padding: 5px;">利得金額ノ百分ノ十</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">乙種利得</td> <td style="padding: 5px;">利得金額ノ百分ノ三</td> </tr> </table>	甲種利得	利得金額ノ百分ノ十	乙種利得	利得金額ノ百分ノ三
甲種利得	利得金額ノ百分ノ十			
乙種利得	利得金額ノ百分ノ三			
<p>十五トス</p>				
<p>法人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ付前二項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ其ノ利得金額中年千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ヲ免除ス</p>				
<p>第十四條ノ二 個人ノ臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス</p>				
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33.33%; padding: 5px;">甲種利得</td> <td style="width: 33.33%; padding: 5px;">利得金額ノ百分ノ十</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">乙種利得</td> <td style="padding: 5px;">利得金額ノ百分ノ二</td> </tr> </table>	甲種利得	利得金額ノ百分ノ十	乙種利得	利得金額ノ百分ノ二
甲種利得	利得金額ノ百分ノ十			
乙種利得	利得金額ノ百分ノ二			
<p>十五</p>				

依リ控除ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第二十四條ノ二 個人ノ利得ニ付利得金額決定後翌年利得金額決定前ニ於テ營業ヲ法人ニ繼續セシメタル者ノ當該營業ノ實際利得額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ利得金額ノ決定ニ付脱漏アリタルモノト看做シ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ當該營業ノ實際利得額ハ其ノ年ニ於ケル收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ基キ之ヲ計算ス
第二十五條中「前條」ヲ「第二十四條」ニ改ム
附則第二項中「昭和十三年十二月三十一日ヲ含ム」ヲ「支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十日迄ニ終了スル」ニ、「昭和十三年分」ヲ「支那事變終了ノ年ノ翌年分」ニ改ム
附則
第一條 本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第一條 法人ノ臨時利得税ニ付テハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ臨時利得税ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ第二十四條ノ二ノ規定ハ昭和十二年分臨時利得税ヨリ之ヲ適用ス
第三條 臨時租稅增徵法第十九條ノ規定ハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル法人ノ各事業年度分ノ臨時利得税ニ付テハ昭和十三年分以降ノ個人ノ臨時利得税ニ付テハ之ヲ適用セズ

コトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該營業ノ實際純益額ハ其ノ年ニ於ケル收入金額ヨリ必要

ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

第十七條 第十四條第一項ノ申請アリタルトキハ政府ハ其ノ處分ノ確定スルニ

至ル迄税金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第十八條 昭和十三年一月一日以後鑛區ノ合併、分割又ハ分合ニ依ラズシテ設定セラレタル採掘權ニ基キ其ノ鑛區ヨリ產出シタル鑛物ニシテ命令ヲ以テ指定スルモノニハ鑛產稅又ハ特別鑛產稅ヲ課セズ

第十九條 命令ヲ以テ指定スル鑛物又ハ其ノ鑛產物ノ每年ノ產出數量ヲ超過シタル鑛業ノ鑛業權者ニハ其ノ超過部分（鑛物及鑛產物ノ產出數量ガ何レモ超過シタルトキハ其ノ超過割合ノ大ナル一方ノ超過部分）ニ付鑛產稅又ハ特別鑛產稅ヲ免除ス

自己ノ掘採シタル鑛物ト他人ヨリ取得シタル鑛物トヲ合併シ製鍊スル場合ニ於テ其ノ取得鑛物ヨリ算出シタル鑛產物ノ數量ハ前項ノ鑛產物ノ產出數量ニトキハ其ノ超過部分ノ鑛產物ヨリ產出スルトキハ其ノ超過部分ノ鑛產物ノ產出數量ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

昭和十二年以後鑛業ノ全部又ハ一部ノ繼續アリタル場合ニ於テハ當該部分ヨリ昭和十二年中ニ產出シタル鑛又ハ其ノ鑛產物ノ數量ハ之ヲ繼續者ノ昭和十二年中ノ鑛產物又ハ其ノ鑛產物ノ產出數量ニ加算シ被繼續者ノ昭和十二年中ノ

鑛物又ハ其ノ鑛產物ノ產出數量ヨリ除算シ第一項ノ超過部分ヲ計算ス

前項ノ繼續アリタル場合ニ於テハ被繼續者方當該部分ヨリ其ノ年ニ於テ產出シタル鑛物又ハ其ノ鑛產物ノ數量ハ之ヲ繼續者ノ其ノ年ニ於ケル鑛物又ハ鑛

產物ノ產出數量ト看做ス

第二十條 砂金以外ノ砂鑛ノ採取ヲ目的トスル砂鑛權者ニハ左ノ稅率ニ依リ毎年特別砂鑛區稅ヲ課ス

河床 河床 一町毎ニ 千坪毎ニ 金三十錢

ザルモノ 砂鑛區域 千坪毎ニ 金三十錢

砂鑛區域 一町毎ニ 金三十錢

河床 一町毎ニ 金三十錢

ザルモノ 砂鑛區域 千坪毎ニ 金三十錢

砂鑛區域 一町毎ニ 金三十錢

附則

第二十四條 本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十五條 田畠地租ニ付テハ昭和十三年分ヨリ、營業收益稅中法人ノ營業收益稅ニ付テハ昭和十三年一月一日以後

益稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ第十六條ノ規定ハ昭和十二年分營業收益稅ヨリ之ヲ適用ス

第二十六條 鑛產稅及特別鑛產稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本法ヲ適用ス

第二十七條 昭和十三年分ノ特別砂鑛區稅ニ付テハ昭和十三年四月以後ノ月割ヲ以テ其ノ稅額ヲ計算シ同年五月三十日迄ニ之ヲ納付セシム

第二十八條 左ニ掲タル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第二十九條 本法施行前輸出若ハ朝鮮移出ノ目的一ヲ以テ又ハ織物消費稅法第七條ノ規定ニ依リテ消費稅ヲ納付セズシテ

第三十條 本法ハ支那事變終了後其ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

三條第二項ノ規定及大正九年法律第五十一號ヲ適用セズ

第三十條 本法ハ支那事變終了後其ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

日滿國稅徵收事務共助法案

第一條 國稅、督促手數料、延滯金若ハ其ノ財產ガ滿洲國內ニ在ル場合ニ於テ滿洲國ノ當該官吏ノ定ムル所ニ依リ滿洲國ノ當該官吏ニ其ノ徵收ヲ囑託スルコトヲ得

第一條 滿洲國ノ國稅、督促手數料、延滯金若ハ滯納處分費ヲ徵收セラルベキ者又ハ其ノ者ノ財產ガ帝國內ニ在ル場合ニ於テ滿洲國ノ當該官吏ノ囑託アルトキハ當該官吏ハ命令ノ定ムル所ニ依リ滿洲國ノ當該國稅、督促手數料、延滯金又ハ滯納處分費ヲ徵收シ之ヲ滿洲國ノ當該官吏ニ送付スルコトヲ得

第一條 滯納處分費ヲ徵收ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外帝國ノ當該法令ニ依ル

第一條 前條ノ規定ニ依ル徵收金ハ國稅徵收ノ例ニ依リテ徵收スルコトヲ得ベキ請求權ニ次ギ先取特權ヲ有ス

第四條 第二條ノ規定ニ依ル徵收金ノ滯納處分ニ對シ不服アル者ハ國稅滯納處分ノ場合ニ準ジ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第五條 第二條ノ規定ニ依ル徵收金ノ徵收及送付ノ費用ハ帝國ノ負擔トス

第六條 附則

國稅徵收法第四條ノ第一第二號ヲ左ノ如ク
改ム

二 府縣稅其ノ他ノ公課又ハ徵收ノ囑
託ヲ受ケタル満洲國ノ國稅ニ付滯納
處分ヲ受クルトキ

(國務大臣賀屋興宣君登壇)

○國務大臣(賀屋興宣君) 只今議題トナリ
マシタ支那事變特別稅法案外三件ノ政府提
出法律案ニ付キ、其大要ヲ説明致シタイト
存ジマス。

先づ支那事變特別稅法案竝ニ臨時利得稅
法中改正法律案ニ付テ説明申上ゲマス、支
那事變ニ關スル臨時軍事費ニ付キマシテハ、
第七十一議會及ビ第七十二議會ノ御協贊ヲ
得マシテ、是ガ經費ヲ支辨シ來ツテ居ルノ
デアリマスルガ、今回更ニ之ヲ増額スルノ
必要ヲ生ジマシタノデ、不日臨時軍事費追加
豫算案ヲ提出致ス積リデアリマス、此追加豫
算案ノ其財源ノ大部分ハ、之ヲ公債ニ俟ツ
コト致シタイト存ジマスルガ、其一部ハ銃
後ノ國民ニ於テ其分ニ應ジ、租稅ヲ以テ負
擔スルヲ適當ト認メラレマスノデ、茲ニ增
稅案ヲ提出致シタ次第デアリマス、租稅ノ
増徵ニ當リマシテハ、政府ハ國民ノ負擔力
ニ留意シ、所得稅ヲ中心トシテ增收ヲ圖ル
コト致シ、又事變ノ影響ニ因リ利益ノ著
シク增加シタルモノニ對シテハ、新ニ標準
ヲ設ケテ其增加利益ニ課稅スルト共ニ、比
較的擔稅力アル方面ノ消費スル物品又ハ行
爲ニ課稅スル爲メ、物品特別稅ノ範圍ヲ擴
張シ、新ニ通行稅、入場稅ヲ新設スルコト
ニ致シタノデアリマス、尙ホ昨年御協贊ヲ
得マシテ、目下施行セラレテ居リマスル北
支事件特別稅ハ、今回ノ增稅案ノ施行ト共
ニ廢止セラル、豫定デアリマス

是ヨリ法案ノ内容ニ付テ説明ヲ致シマ
ス、所得稅ニ付テハ、其負擔ヲ一割五分程
度引上ゲルコトニ致シマシタガ、北支事件
特別稅ニ於テ、稅額ノ一割程度ノ增徵ヲ行ツ
テ居リマスルカラ、今回ノ增徵ニ依ル負擔
ノ增加ハ一割五分程度デアリマス、尙ホ法
人ノ所得稅ニ付テハ、超過所得ニ對スル增
徵額ハ、北支事件特別稅ト同様ニの一割ノ
程度ニ止メ、第二種所得稅ニ付テハ、國債
ノ消化竝ニ產業資金ノ疏通等ヲ考慮致シマ
シテ、國債ノ利子ニ付テハ、利率年四分以
下ノモノニ對シテハ増徵ヲ見合セ、又地方
債竝ニ社債ノ利子ニ付テハ、利率年四分五
厘以下ノモノノ、銀行預金ノ利子、貸付信託
ノ利益ニ付テハ、其增徵率ヲ少ク致シテ居
ルノデアリマス、第三種即チ個人ノ所得稅
ニ付キマシテハ、其課稅ノ最低限千二百圓
ヲ千圓ニ引下ゲマシテ、國民ノ所得稅ヲ負
担スル範圍ヲ廣ク致シマシタノデアリマ
ス、臨時利得稅ニ付テハ、北支事件特別稅
ノニ對シマシテハ、此際增徵スルヲ適當ト
ト同様ノ課稅デアリマスガ、更ニ支那事變
ノ影響等ニ因リマシテ、利益ノ増大スルモ
ノニ對シマシテハ、其負擔力ヲ考慮
マス、其稅率ハ最低三等乗客五十軒以上ノ
等乗客ニ對シマシテハ、其負擔力ヲ考慮
ノデアリマスルガ、五十軒未滿ノ短距離三
汽船等ノ乗客ニ對シ課稅スルコトニ致シタ
シ、課稅ヲ致サナイコトニ定メタノデアリ
マス、通行稅ニ付キマシテハ、汽車、
モノ二錢ヨリ、最高一等乗客八百軒以上ノ
モノ二圓四十錢ニ至ル迄トシ、距離ト等級
ニ應ジタル階級定額稅率ヲ設ケルコトニ致
シタノデアリマス、次ニ入場稅ニ付テハ劇
場、活動寫眞館、舞踏場、「ゴルフ」場、野
球場、競馬場等ノ入場者ニ對シ、大體其入
場料金ノ百分ノ十ノ稅率ヲ以テ課稅スルコ
トニ致シ、又學生ノ運動競技等ヲ觀覽スル
爲メ入場スル者ニ對シマシテハ、特別入場稅
ヲ課スルコトニ致シタノデアリマス、又物
品稅ニ付テハ、北支事件特別稅法ニ依リ物
品特別稅ヲ設ケタノデアリマスルガ、今回
更ニ其課稅品目ノ範圍ヲ擴張致シマシテ、
比較的擔稅力アル方面ノ消費スル物品ニ課

稅スルコトニ致シタノデアリマス、其稅率
七分ヲ超エル金額、國債ニ付テハ利率年四
分、其他ノ公債及ビ社債ニ付テハ、利率年四
分五厘ヲ超ユル金額ニ對シ、百分ノ十ノ
稅率ヲ以テ課稅スルコトニナッテ居リマス
ルガ、是ハ北支事件特別稅ト同様デアルノ
ノ増加ハ一割五分程度デアリマス、尙ホ法
人ノ所得稅ニ付テハ、超過所得ニ對スル增
徵額ハ、北支事件特別稅ト同様ニの一割ノ
程度ニ止メ、第二種所得稅ニ付テハ、國債
ノ消化竝ニ產業資金ノ疏通等ヲ考慮致シマ
シテ、國債ノ利子ニ付テハ、利率年四分以
下ノモノニ對シテハ増徵ヲ見合セ、又地方
債竝ニ社債ノ利子ニ付テハ、利率年四分五
厘以下ノモノノ、銀行預金ノ利子、貸付信託
ノ利益ニ付テハ、其增徵率ヲ少ク致シテ居
ルノデアリマス、第三種即チ個人ノ所得稅
ニ付キマシテハ、其課稅ノ最低限千二百圓
ヲ千圓ニ引下ゲマシテ、國民ノ所得稅ヲ負
担スル範圍ヲ廣ク致シマシタノデアリマ
ス、臨時利得稅ニ付テハ、北支事件特別稅
ノニ對シマシテハ、此際增徵スルヲ適當ト
ト同様ノ課稅デアリマスガ、更ニ支那事變
ノ影響等ニ因リマシテ、利益ノ増大スルモ
ノニ對シマシテハ、其負擔力ヲ考慮
マス、其稅率ハ最低三等乗客五十軒以上ノ
等乗客ニ對シマシテハ、其負擔力ヲ考慮
ノデアリマスルガ、五十軒未滿ノ短距離三
汽船等ノ乗客ニ對シ課稅スルコトニ致シタ
シ、課稅ヲ致サナイコトニ定メタノデアリ
マス、通行稅ニ付キマシテハ、汽車、
モノ二錢ヨリ、最高一等乗客八百軒以上ノ
モノ二圓四十錢ニ至ル迄トシ、距離ト等級
ニ應ジタル階級定額稅率ヲ設ケルコトニ致
シタノデアリマス、次ニ入場稅ニ付テハ劇
場、活動寫眞館、舞踏場、「ゴルフ」場、野
球場、競馬場等ノ入場者ニ對シ、大體其入
場料金ノ百分ノ十ノ稅率ヲ以テ課稅スルコ
トニ致シ、又學生ノ運動競技等ヲ觀覽スル
爲メ入場スル者ニ對シマシテハ、特別入場稅
ヲ課スルコトニ致シタノデアリマス、又物
品稅ニ付テハ、北支事件特別稅法ニ依リ物
品特別稅ヲ設ケタノデアリマスルガ、今回
更ニ其課稅品目ノ範圍ヲ擴張致シマシテ、
比較的擔稅力アル方面ノ消費スル物品ニ課

營業収益稅ノ稅額ヲ輕減シ、収益ノ減少致シマシタ是等ノモノニ對シ、其負擔ヲ輕減致シタイト存ジテ居ル次第アリマス、尙ホ本案ノ施行ニ伴ヒマシテ、地方附加稅及ビ地方稅ニ付テモ相當輕減セラル、コトナルノデアリマス、又我國ニ於キマシテ、此際必要トスル鑛物ノ產出ノ助長ヲ圖ル趣旨ヲ以チマシテ、金鑛、銅鑛、亞鉛鑛、錫鑛等ノ鑛物ニ付キ、新ニ採掘權ヲ設定シタル場合、及ビ昭和十二年中ノ產出數量ヲ超過シタル場合ニ付テハ、其鑛物ニ付キ鑛產稅ヲ免除スルコト致シ、又砂金以外ノ砂鑛ニ付キ特別砂鑛區稅ヲ課スルコト致シマシタガ、是ハ是等ノ砂鑛區ニ付キ、其採掘量ヲ增加セシメントスル趣旨デアリマス、其他棉花ノ節約ニ資スル爲メズテ一フルファイバー、麻等ヲ混紡シタル綿絲ニ依ル織物ノ一部ガ、現在課稅セラレテ居リマスルノヲ、課稅ノ外ニ置クコトト致シタノデアリマス、以上申シマシタ臨時的措置ニ依リマシテ、大體平年度ニ於キマシテハ、地租、營業収益稅、鑛產稅、織物消費稅等ノ減收額合計約四百餘萬圓、地方稅ニアリテハ、地租附加稅、營業収益稅附加稅等ノ減收額合計六百餘萬圓、國及ビ地方ヲ合セマシテ約一千万圓ノ減稅トナル見込デアリマスル次ニ日滿國稅徵收事務共助法案ニ付テ説明申上げマス、近時滿洲國ノ發展ニ伴ヒマシテ、日滿兩國間ノ交通頻繁ニナリツ、アリマスルノニ鑑ミマシテ、兩國相互間ニ國稅徵收事務ノ共助ヲ爲シ得ルノ途ヲ開クコトト致シマシテ、茲ニ其法案ヲ提出致シタ次第デアリマス

マシテハ、委員會ニ於キマシテ説明申上
ルコトト致シマス、何卒御審議ノ上速ニ
而贊アランコトヲ希望致シマス(拍手)
副議長(金光庸夫君) 質疑ノ通告ガアリ
ヘ、順次之ヲ許シマス——紫安新九郎君
(紫安新九郎君登壇)

○キマシテハ、委員會ニ於キマシテ説明申上
ガルコトト致シマス、何卒御審議ノ上速ニ
御協賛アランコトヲ希望致シマス(拍手)
○副議長(金光庸夫君) 質疑ノ通告ガアリ
マス、順次之ヲ許シマス——紫安新九郎君
〔紫安新九郎君登壇〕

○紫安新九郎君 諸君、私ハ只今上程セラ
レマシタル支那事變特別稅法案ニ對シテ政
府ニ質問セントスルモノニアリマス、日支
事變勃發直後、海外諸國ハ我國財政ノ前途
ニ對シテ、果シテ持久戰ニ堪ヘ得ルモノデ
アルカドウカト云フコトノ疑問ヲ挿ンデ居
タノデアリマスルガ、茲ニ廣袤千里ニ瓦ル
トモ云フベキ戰線ニ近代戰ヲ進ムルコト半
歲、而モ財政上ニ於テハ微動スラナキ事實
ヲ以テ、支那ヲ膺懲シツ、アルト云フコト
ハ、吾々ハ國民ト共ニ沟ニ同慶ニ堪ヘザル
次第デアリマス、今ヤ事變ハ長期ニ入ッタ
デアリマスルカラシテ、問題ハ過去ニナク、
正ニ將來ニアリト言ハナケレバナラナイ
ノデアリマス、即チ時局ハ國民白熱ノ協
力ヲ要シ、國家的緊張ノ最高度ヲ要求致シ
テ居ルノデアリマス、國民ハ國家ニ對シ
進ンデ増稅ヲ迎ヘナケレバナラスト思フノ
デアリマス、此度政府ガ要求致シマシタル
所ノ增稅ハ、總額約三億圓餘デアリマス、
外ニ煙草値上增收ガ一千万圓デアリマス
ガ、實際ニ當リマシテ端數ヲ考ヘ、自然增
收ヲ考ヘマスルト、或ハ四億圓近クニナル
カモ知レナインデアリマス、政府ノ今度ノ
增收程度ヲ三億圓餘ノ見當ト致シマシタコ
トハ、ドンナ所カラ割出シタノデアルカ判
明致シマセヌガ、假ニ之ヲ國債ノ利子ニ充
當スルト云フ見地カラ申シマスレバ、現在
ノ國債ノ利廻三分七厘デアリマスルカラシ

國債ノ金利ハ今度ノ增稅ダケデ賄ツテ行ケ
ル譯デアリマス、斯様ニ觀察致シマスレバ
増稅額其モノハ大體ニ於テ妥當デアルト信
ズルノデアリマス、今回ノ增稅ハ臨時軍事
費ノ財源ニ充當セラレルトスルナラバ、此
兩者ハ密接不離ノ關係ニアルニ拘ラズ——
軍事費ハ本日ノ新聞ニヘ出テ居リマンタガ、
マダ本院ニハ提出セラレナイカラ、此雙方
ヲ睨ミ合ハスコトハ出來ナインデアリマス
ルガ、政府ハ一體下程ノ軍事費ヲ提出セ
ントスルノデアルカ、先ヅ之ヲ御伺致シマ
ス

ソレカラ又増稅ハ是デ打切ニナルノデア
ルカドウカト申シマスト、時局今後ノ推移
ヲ想像致シマスルト、今回ダケデ打切ニナ
ルモノトハ思ヘナインデアリマス、今日ヨ
リ見透シノ付クモノダケデモ、二ツノ大イ
ナル問題ガ横ハツテ居ルト思フノデアリマ
ス、第一ハ、事變以外ノ一般歲出ニ於テモ
事變ノ爲メ極力切詰メタト申シマシテモ、
尙ホ赤字公債六七億圓ハ依然トシテ存續シ
テ居ルノデアリマス、第二ハ、現實ニ日支
ノ間ニ於テ砲火ヲ交ヘナイ程度ニ至リマシ
テモ、軍事費ノ急激ナル減少ハ想像シ得ナ
イノデアリマス、事變ガ一段落ヲ告ゲマシ
テモ、尙ホ相當巨額ナル支那駐在軍事費ヲ
要スルコトト思フノデアリマス、尙ホ其上
ニ世界ノ海軍擴張ニ伴ヒマシテ、我ガ海軍
ノ擴張費ニモ相當ナル費用ヲ要スルコトト
思フノデアリマス、斯様ニ考ヘテ參リマス
ト云フト、增稅ハ今度ノ增稅ダケデ打切ラ
レルモノトハ思ヘナインデアリマス、更ニ
必ズヤ相當ノ增稅ガ出テ來ルコトト致シマ
スレバ、其增稅ハ現在ノ儘ノ稅制ノ下デ施

行スルコトハ、斷ジテ吾々ノ贊成セザル所
デアリマス、凡ソ増税ヲ断行セントスルノ
ニハ、現行税法ノ不公平ノ點ヲ修正シ、負
擔關係ノ地均シヲ豫メ用意シナケレバナラ
ヌト思フノデアリマス、サウデナイト現行
税法ノ缺點ヲ強化シ、負擔關係ノ凸凹ノ上
ニ、一層此凸凹ヲ大ナラシムルノデアリマ
ス、隨テ増税ヲ行フ際ニハ、其前提條件ト
シテ、現行税法ノ不公平ヲ除キ置カナケレ
バナラナインデアリマス、然ルニ賃屋藏相
ノ先月二十二日本院ニ於テ爲サレタル所謂
施政演説ノ中ニ、斯様ナ事ヲ申シテ居ラレ
ルノデアリマス、租税制度ノ中央及ビ地方
ヲ通ズル全般的改革ニ付テハ、政府ニ於テ
モ豫テヨリ其必要ヲ認メ調査ヲ進メテ參ツ
タノデアル、偶々支那事變勃發シ、税制ノ基
礎トナルベキ經濟事情、及ビ國民ノ負擔力
ニ相當ノ變化ヲ生ジツ、アルノデ、之ヲ見
合セルコトト致シマシタト申サレタノデア
リマス、經濟事情ヤ國民ノ負擔力ハ、殆ド
何時ノ時代デモ變化シテ止マザルモノデア
リマス、之ヲ以テ財政的根本策ノ樹立ヲ見
合スト云フコトハ、甚ダ當ヲ得ナイモノデ
ハナカラウカト思フノデアリマス、税制改
革ハ寧ロ非常時ナルガ故ニ之ヲ行フベキデ
アラウト思フノデアリマス、日露戰爭、世
界大戰ヲ契機ト致シマシテ、我國ニ税制改
革ノ行ハレタルコトハ言フ迄モナク、各國
ニ藉口シテ、租税體系ノ完璧ヲ期スル根本
的改革ヲ樹立スルノ態度ニ出ナカッタノデ
アルカ、之ヲ御伺致シマス

時ニ之ヲ認ムルノデアルカドウカト云フコトデアリマス、本増税ハ其名稱ノ如ク、支那事變ニ處スル特別税法デアリマス、又其條文ノ中ニモ本法ハ支那事變終了後其翌年十二月三十一日マデニ之ヲ廢止スルモノトテアリマス、併ナガラ既ニ長期抗戦ノ立前アル以上ハ、事變ハ必ズヤ相當ノ長期ニ亘テ繼續スルモノト認メナケレバナラナイノデアリマス、又事變終了ノ後一箇年餘デハ、直チニ之ヲ廢止スルト云フコトハ實際ニヘ出来ナイカト私ハ思フノデアリマス、何故デアルカト申シマスルト、軍事的ノ事變終了ハ區切リガ立ツノデアリマスルガ、財政上ヨリ見ル事變終了ハ軍事的事變終了ト同一ニハ見ラレナイカラデアリマス、其適切ナル先例ハ満洲事變ガ示シテ居ルノデアリマス、蔣政權ハ對手ニシナイデ、新政府ヲ對手トスルト云フ長期戦爭化シタ今度ノ事變ノ性質カラ申シマスルト、恐ラク何時事變ガ終了シタト云フガ如キ劃然タル財政上ノ時期ヲ定期メルト云フコトハ、容易ニ出來ナインデヘナカラウカト思ハレルノデアリマス、事變勃發以來是マデノ我ガ事變對策ハ、之ヲ極メテ短期ノモノト認メテノ應急策デアツカヤウニ見ラレルノデアリマス、隨テナンデモ小出シニシテ來ルノデアリマス、持久戦ト云フ方針ガ決定シタ以上ハ、當然ニ財政策モ稅制問題モ、新事態ニ即應シタル根本策ヲ樹立シナケレバナラナイト思フノデアリマス、况ヤ臨時租稅增徵法ト新稅法デ昭和十二年度ニ二億六千五百万圓ノ増稅ヲ斷行スルニ當ツテ、結城藏相ハ第七十議會デ昭和十三年度カラ中央地方ヲ通ズル稅制ノ根本的改革ヲ爲スペキ旨ヲ約束シタ程、

現行税制ニハ一大缺陷ガアルデハアリマセ
ヌカ、政府ハ政府ノ所謂事變終了セザル間
ハ、何時マデモ本税法ヲ施行シテ行ク積リ
デアルカ、又事變ニ對スル財政上ノ關係
モノト思ツテ居ルノデアルカ、之ヲ御伺致シ
マス

次ハ税制ノ内容ニ對スル問題ニアリマス、
先ヅ直接税ト間接税トノ振合デアリマス、
三億圓増税ノ中前者ハ約二億圓、後者ハ約
一億圓ニアッテ、大體ニ於テ妥當ナル分配ト
思フノデアリマス、又酒類ノ増徴ヲ酒精ノ
増徴ニ依ラズ、物品特別税ニ加ヘテ庫出課
税制ト爲シ、更ニ營業収益地租等ニ對シ、
事變ニ因ル中小商工業者竝ニ自作農等ノ打
撃ヲ緩和スル爲、特別ノ輕減ヲ設ケタル點
ナドハ、政府方細心ノ注意ヲ拂ツテ居ルコト
ヲ認ムルニ吝カナラザルモノデアリマス、
併シ本増税案内容ニ對スル問題ハ、各種資
本ノ間ニ於ケル負擔ノ不公平デアリマス、
大難把ニ之ヲ申スナラバ、金融資本ニ對シ
ハ極メテ輕微ナル事變費負擔ヲ課シ、產業
資本竝ニ勤勞所得ノミ重稅ヲ課スルト云フ
問題ガ横ハッテ居ルノデアリマス、換言スレ
バ、國債ヲ優遇シテ株式ヲ虐待シテ居ルト
思フノデアリマス、今度ノ増税案ハ酒、煙
寸、其他ノ物品特別税、交通税、入場料稅
デ合計九千三百万圓、外ニ煙草ノ値上げ
一千萬圓、總計二億圓餘ノ所謂大衆課稅ヲ
施行セントスル上ニ、第三種所得稅ニ於テ
モ是迄ノ免稅點千二百圓ヲ千圓ニ引下ゲ
テ、銃後ノ國民義務ヲ一般化シテ居ルノデ
アリマス、然ルニ此間ニ於テ其所得ノ性質
上最モ負擔力アル國債、地方債、社債、銀
行預金ノ利子ヤ、信託預金ノ利益ニ對スル

増税ハ、ホンノ税率ノ端數ヲ整理シタコト云
フ程度ニ過ギナインデアリマス、其第三種所
得稅ガ最モ大キナ增稅デアリマス、稅額セ六千
四百万圓ニ上リ、物品課稅ト共ニ今度ノ增稅
ノ雙壁ヲ爲スモノト言ハナケレバナラヌノソレハ
デアリマス、即チ第一種、第三種所得、ソレハ
勤勞所得乃至産業所得デアリマス、此物資缺
乏ノ非常時ニ於テ國家ハ最モ之ヲ尊重シナ
ケレバナラナイ程度ノモノデアルニ對シテ、
百分ノ二十五ノ增徴ヲシナガラ、國債所得
ニ對シテハ利率年四分以下ノモノハ百分ノ
二、利率年四分ヲ超ユルモノハ百分ノ一・五
ヲ課スルノデアリマス、國債以外ノ公債社
債ニ至リマシテハ、殆ド國債課稅ニ對スル
申譯ニ過ギナイ程輕微ナモノデアリマス、
一億ノ大衆課稅ヲ敢行スル必要ニ迫ラレテ
居ル非常時ニ於テ、負擔能力最モ多キ金融
資本ニ對シテ、斯ノ如キ輕微ナル課稅ニ止
メ置イタノデアリマスルガ、是ハドウ云々
譯デアルカ、此點ニ付テ私ガ村度スルナラ
バ、政府ハ今後ニ於テ數十億圓ノ公債發行
ヲ控ヘテ居ル、此場合ニ他ノ資本同様ニ
國債ニ課稅スルナラバ、國債ノ消化が困難
ニナルトス様ニ考へテ、ソレデ今度ノ增稅
ヲ對シテハ、國債ニ對シテ極メテ輕微ナ
ル課稅ヲ爲サントスルノデアル、併シ是ハ
一寸考ヘルト尤ノヤウニ思ハレマスルガ、
是ハ經濟界ノ實際ノ眞相トハ遠ザカツテ居
ルモノト言ハネバナラヌノデアリマス、何
トナラバ國債ニ課稅致シマシテモ、國債ノ
市價其モノガ別段ニ變化スルモノデハナイ
ノデアリマス、國債ニ課稅スルナラバソレ
ダケ金利ノ水準ガ下ルノデアリマス、又國
債ノミヲ免稅スルナラバ、ソレダケ金利ノ
水準ガ上ルノデアリマス、此理窟ハ吾々ノ

素人論デハナインデアリマス、其證據ニハ
一昨年六月五日、手形交換所聯合會ニ於ケル
理事長ノ森氏ハ、斯様ナル演説ヲシテ居
ルノデアリマス、低金利ハ公債消化ニモ產
業發達ニモ勿論必要デアルガ、將來低金利
ニナルガ如キ觀念ヲ一般ニ懷カシムル時ハ、
却テ不健全ナル投機心ヲ誘發シテ、低金利
ノ效果ヲ薄弱ナランメル虞ガアル、ソレカ
ラ又今日ハ特ニ國債ノ利廻ガ、總テノ金利
ノ標準ニナツテ居ルカラ、今後國債ノ借換ヤ
新規發行ニ際シテハ、其波及スル所ヲ篤ト
考察スルコトガ望マシイノデアル、手形交
換所理事長ノ森氏ハ、斯様ニ申シテ居ルノ
デアリマス、今日ノ國債ノ利廻ト云フモノ
ガ、總テ金利ノ標準ヲ爲シテ居ルノデアリ
マスルカラシテ、國債ノ課稅ヲ免除シタカ
ラト言ッテ、ソレデ國債ノ消化方宜シトイハ
言ヘナイノデアリマス、何トナレバ國債ニ
課稅シテ居ナカツタナラバ、市場ニ於テハ直
チニソレダケヲ市價ニ織込ンデシマフノデ
アリマス、ソコデ買手カラ言フナラバ、國
債ヲ買フノモ、公債ヲ買フノモ、社債ヲ買
フノモ、將タ株式ヲ買フノモ採算關係ハ元
ノ儘ニ殘ツテ居ルノデアリマス、以上述べマ
シタル所ハ、是ハ單ニ負擔ノ不公平ト云フ
問題ニ止ラヌノデアリマス、其譯ハ今日ノ
非常時ニ於テ我ガ產業ニ不自然ナル多大ノ
壓迫ヲ加ヘルカラデアリマス、私ハ繰返シ
テ申シマスル、金融資本所得ニ對スル課稅
ト大衆負擔トハ、如何ニモ均衡ヲ得テ居ナ
イノデアリマス、金融資本所得ニ對シテ僅
ニ百分ノ〇・五ノ増徴シカシナイノニ、大衆
負擔稅中最モ適切ナル大衆負擔稅トモ言フ
ベキ煙草ニ對シテハ、最低五分九厘、最高

日露戰爭ノ明治三十七年ニ財政上ノ必要ニ
基イテ煙草專賣法ガ實施サレテカラ、今度
申シナガラ、兎ニ角今度ノ値上ハ飛躍的ノ
ノ値上デ八度ノ煙草定價ノ改正ヲ行ヒ、其
中値下ハ一回デ、七回ハ値上デアリマス、
煙草ハ專賣ダカラ政府ガ勝手ニ出來ルトヘ
申シナガラ、兎ニ角今度ノ値上ハ飛躍的ノ
値上ト言ハザルヲ得ヌノデアリマス、又第
三種所得ニ對スル増稅ハ一寸考ヘマスルト、
單ニ個人ノ所得ガ減少スルト云フ問題ノ如
クニ見ラレルノデアリマスルガ、事實ハ決シ
テ左様ナル問題ニ止ルモノデハナイノデアリ
マス、實ハ一國資本金ノ動キヲ左右スルノ所ノ
重大ナル結果ヲ招來スルノデアリマス、本稅
法ニ於テハ高利ナル時代ノ國債所有者ニ對
シテハ、頗ル輕微ナル源泉課稅ヲスルノデ
アリマスガ、株式ノ所得ハ第三種所得ニ綜合
セラル、結果、基本稅法ノ累進率ニ應ジテ
附加稅ヲ課セラレ、更ニ右ノ累進率ニ應ジテ
再三臨時的增稅ヲ受ケルト云フ、甚シキ不
公平ナル負擔ヲ爲シテ居ルノデアリマス、
株式所得ハ綜合課稅ガ加ヘラレルカラ、所
得階級別ニ依ツテ利廻ガ變化スルノデアリ
マス、即チ利廻ハ高級所得階級毎ニ低下ス
ルノデアリマス、本稅法ニ依ル所得稅ノ上
ノ率ヲ上ゲルト云フコトハ、感情的カラ申
シマスルト痛快ト感ズル人モアルデアリマ
スウガ、此所得稅ノ上ノ率ヲ無暗ニ上ゲル
結果ハ一般民衆ニ對シテ思ハザル影響ヲ與
フルモノデアリマス、即チ生産資本ニ對ス
ル非常ナル壓迫トナルノデアリマス、凡ソ
今日ノ時局ニ於テ、我國ガ第一ニ必要トシ
テ居ルモノハ、大規模ニシテ急速ナル生産
力ノ擴充デアリマス、是ハ一般民衆ノ生活
ニ密接ナル利害關係ヲ持ツテ居ルノデアリ
マス、而シテ生産力ヲ擴充スルノニ、第一

ニ必要トナルモノハ何デアルカト云フト、長期ノ固定資本デアリマス、其長期ノ固定資本ノ調達ハ、今日ノ經濟組織ノ下ニ於テハ、先ヅ自己資本即チ株式ノ所得根幹トナルヨリ外ハナイノデアリマス、尤モ今日マデニ基礎ノ相當安定シ、資金モ頗ル豊富デアル既成事業へ別ト致シマシテ、今日ノ我國ガ最モ必要ナリト思フ所ノ生産力擴充ハ、新興產業ノ發展デアリマス、又マダ海ノモノトモ山ノモノトモ分ラナイ新事業ノ發展デアルノデアリマス、然ルニ此際ニ株式虐待ノ稅制ヲ布クト云フコトハ、國策的ニ重要デアル事業ノ資金ヲ、調達難ニ陥ラシムモノデアリマス、政府ノ言フ生産擴充ノ國策ニ逆行スルモノデアルト思フノデアリマス、吾々ハ今日ノ日本程生産力擴充ヲ急トスル秋ハナイト思フノデアリマス、最近ノ新聞ニ依リマスト、晒木綿ノ値段ガ僅カ二週間デ倍ニナリ、一般民衆モ金持モ反物屋ノ店頭ニ殺到シテ居ルト云フコトデアリマス、是ハ一例ニ過ギナイノデアリマスガ、各種ノ方面ニ於テ是ト似タリ寄タリノコトハ、殆ド枚舉ニ追ガナイノデアリマス

徵法ニ依リ、更ニ支那事變特別稅ニ依リ重複シテ課稅セラレテ居ルノニアリマスカラ、法人個人共ニ課稅額ノ最大限度ヲ規定スルコトガ妥當デアラウト私ハ思フノデアリマス、政府ハ何故ニ最大限度ノ規定ヲ設ケナカツタデアリマセウカ、第三ハ法人ノ固定資產ニ對シテハ減價銷却ヲ是認シテ居ルノデアリマスカラ、個人ニ對シテモ減價償却ヲ是認スルト云フコトガ妥當デハナイデセウカ、第四ハ本稅ハ輸出品ニ對シテハ免除セラレテ居ルノデアリマスルガ、輸出先ニ於テハ稅額ヲ含メタト同様ノ價格ヲ基礎ト致シマシテ關稅ヲ課シ、中ニハ右ノ本稅ヲ以テ不當廉賣ナリシテ所謂報復關稅ヲ課シテ居ル場合ガ少クナインデアリマス、ソコデ斯様ナル輸出ノ障碍ヲ除クガ爲ニハ、最初ニ輸出向ノ物品ニ對シテハ特別稅ヲ課セナイヤウニスルコトガ輸出獎勵上最モ必要デハナイデアリマセウカ、此點ニ對シマシテハ私共ハ大阪ニ於テ常ニ輸出商ヨリ此困難ナル事情ヲ聞キ、之ヲ痛切ニ感ジテ居ル者デアリマス、今ヤ時局ハ極メテ重モ必要デハナイデアリマセウカ、我ガ皇軍ガ酷暑嚴寒ノ裡ニ於テ忠勇義烈ナル働く爲シテ居ルノニ對シマシテモ、國民ハ各々其分ニ應ジテ銃後ノ御奉公ニ努メンケレバナラヌノデアリマス、唯稅法上ニ於ケル負擔ノ不公平ニ對シテハ出來得ル限り之ヲ避ケナケレバナリマセヌ、以上申述ベタル所ヲ以テ私ノ質問ト致シマス(拍手)

申上ダマス
以下御質問ノ諸點ニ付キマシテ順次御答ヲ
ル
今回追加豫算ト致シマシテ提出致シマス
ル臨時軍事費ハ大體四十八億圓ニ餘る見込
デ居リマス、次ニ税制整理ヲ致シ負擔ノ均
衡ヲ圖ツク上デ増税ヲ爲スベシト云フ御設
ハ、御趣旨ニ於テハ同感デアリマスルガ、
只今ノ時局ニ依リマシテ或ハ急激ニ税ノ負
擔力ノ増加スルモノ、又減少スルモノガアリ
リマスルノデ、此際ニ負擔ノ公平ヲ圖リ、慎
久的ノ税制ヲ立テマスルコトハ其時期デアリ
マセス、故ニ已ムヲ得ズ之ヲ延期致シマ
シテ今回ノ増税ニ於テハ成ベク是等ノ事端
ヲ考慮致シマシテ、負擔力ノアル方面ニ税
ノ課リマスヤウニ按排ヲ致シタノデアリマ
ス、本税ノ終期ガ事變ノ終リマスル年ノ翌
年マデトナツテ居リマスルノモ、成ベク早
ク税制整理ヲ致シテ、其基礎ノ上ニ増税ヲ
致スノガ本筋デアリマスルシ、又將來ハ増
税ノ額ニ付キマシテモ只今考ヘテ居リマス
ルヨリハ變ツタ考ガ起リ得ル餘地モアリマス
スルノデ、一應左様ニ終期ヲ付シテ置キマ
シタ、其際ニ適當ナル全部のノ案ヲ立案シ
タイ、斯様ナ趣旨デアルノデアリマス
尙ホ今回ノ増税ハ公債社債等ノ金融資本ニ
増加スルコト薄クシテ、産業資本ニ増微シ
デアリマスルノミナラズ、産業資本ノ疏通
ヲ圖リマスル爲ニ斯様ナコトヲ致シタノモ
重大ナル一つノ理由デアリマス、國債ニ付
キマシテ、是ガ消化ニ付キ各方面ニ於テ色
色ト御心配ニナツテ居ルコトハ御尤デアリ
マス、是ガ消化ニ付テハ萬全ノ策ヲ執ラナ
ケレバナラナイノデアリマス、而シテ只今

官報號外 昭和十三年二月十八日

昭和十三年一月十八日

衆議院議事速記録第十四回

支那事變特別秘法

第一讀會

徵法ニ依リ、更ニ支那事變特別稅ニ依リ重複シテ課稅セラレテ居ルノデアリマスカ

以下御質問ノ諸點ニ付キマシテ順次御答ヲ
申上ゲマス

今回追加豫算ト致シマシテ提出致シマス
ル臨時軍事費ハ大體四十八億圓ニ餘る見込
デ居リマヌ、火ミ税利整理ア致ニ負擔

次ニ積制整理テ致シ貪増ノ如
衡ヲ圖ツタ上テ増稅ヲ爲スベシト云フ御設
ハ、御趣旨ニ於テハ同感デアリマスルガ、

只今ノ時局ニ依リマシテ或ハ急激ニ稅ノ負擔力ノ増加スルモノ、又減少スルモノガアリマスレノデ、比祭ニ負擔ノ公平ヲ圖リ、西

久のノ税制ヲ立テマスルコトハ其時期デア期延セヌ、故ニ已ムヲ得ズ之ヲ延期致シマ

シテ今回ノ増稅ニ於テハ成ベク是等ノ事情ヲ考慮致シマシテ、負擔力ノアル方面ニ稅ノ課リマスヤウニ按排ヲ致シタノデアリマ

ス、本税ノ終期ガ事變ノ終リマスル年ノ翌
年マデトナッテ居リマスルノモ、成ベク早

タクシ制整理ヲ致シテ、其基礎ノ上ニ増税ニ致スノガ本筋デアリマスルシ、又將來ハ増税ノ額ニ付キマシテモ只今考ヘテ居リマス

ルヨリハ變ツタ考ガ起リ得ル餘地モアリマスルノデ、一應左様ニ終期ヲ付シテ置キマント、其祭ニ商當ナレ全部的ノ案ヲ立案シ

タ、斯様ナ趣旨デアルノデアリマス

ニ増加スルコト薄クシテ、産業資本ニ増徴スルコトガ厚イト云フ御説デアリマスルガ、是ハ只今ノ經濟界ノ現状已ムヲ得ナイコト

デアリマスルノミナラズ、産業資本ノ疏通
ヲ圖リマスル爲ニ斯様ナコトヲ致シタノモ
重大ノソノ理由アリマス、因縁ニ付

ノ金利水準ハ數年來國債ニ於テハ五分利ヨリ三分半利、利廻三分六厘六毛程度ニ低下ヲ致シテ居ルノデアリマス、此際國債ニ課稅ヲ致シテモ國債ノ價格ガ變ラズ、何等資本ノ集中ニ變化ナイトハ申上ゲ惡イノデアリマス、只今銀行預金ヲ以チマシテ國債ヲ購入スル場合ニ於テ、其「マージン」ノ少ナイコトハ定説デアリマス、之ニ國債ニ尙ホ重課致シマスレバ其邊色々ノ變化ヲ起ス事情ニアリマシテ、只今ノ金融情勢上極メテ不適當ナノデアリマス、ソレ故ニ國債ニ付キマシテハ殆ド増課ヲ致サナカッタ次第デアリマス、又社債ニ付キマシテモ同様近年ノ低金利ノ影響ヲ受ケマシテ、株式ノ利廻トノ釣合ニ於テ社債ノ方ガ寧ロ低下ノ度ガ著シイノデアリマス、是ハ昨年ノ臨時増徵式ノ新規ノ拂込其他方極メテ旺盛デアツタアリマスルガ、其結果ハ昨年ニ於キマシテ社債ノ發行ガ殆ド出來マセヌデシタガ、株事實ニ微シマシテモ、只今ノ金利水準ニ於テ社債等ニ重課致シマスルコトハ、適當デナイト云フコトガ明カデアルト思ヒマス、社債ハ御承知ノ如ク重要ナル產業資金ニアリマス、此際生産擴充ノ爲ニハ社債ノ發行ヲ圓滑ナラシムルコトガ極メテ必要デアリマスルノデ、特ニ其邊ニ留意ヲ致シテ斯様ナ處置ヲ執ッタ次第デアリマス、併シ今申上ゲマシタ國債社債等ノ特別待遇ハ、是ハ現在ノ金利水準ニ近イモノニ限リマシテ、國債ニ於テハ四分以上、社債等ニ於テハ四分五厘以上ノ從來カラ殘テ居リマスル利債ニ付テハ、ヤハリー一割五分ト云フ他ノ所得稅ト同率ノ增徵ヲ致シテ居リマス、尙ホ其外高率ノ有價證券ト致シマシテ、其四

分五厘、或ハ四分ヲ超ユルモノノ一割其モリ致シテ居ルノデアリマス、此點ニ付キマシテハ、負擔ノ均衡上相當ナル留意ヲ致シテ居ルノデアリマス、又臨時利得稅ヲ其儘存置シテ置イタノハ、ドウ云フ譯カト云フ御話デアリマスルガ、是ハ今回ノ事變ニ因リマシテノ負擔力ノ増加ヲ致シタ部分ヲ增徵スル必要ヲ認メマシテ、ソレニハ從來ノ臨時利得稅法ヲ改正ヲ致シマシテ、最近ノ基準年度以上ノ利益ニ付キマシテ取リマスルコトガ一番適當デアルノデ、斯様ナ處置ニ致シタノデアリマス、又各種ノ稅法ニ依ヅテ課稅ヲセラレル結果、或ルツノ納稅者ニ取ヅテ非常ナル過重ノ場合ガアル、其場合ニ付テ課稅ノ最大限度ノ規定ヲ設ケザルヤト云フ御話デアリマスルガ、其點沟ニ御尤デアリマシテ、今回ノ提案ノ中ニモ、所得稅ヲ基準トシテ課シマスルモノニ付キマシテハ、其地方ノ附加稅等ヲモ考慮シマシテ、最大限ガ或ル程度ニ止マリマスル如ク負擔ノ最大限ヲ緩和スルノ規定ヲ設ケテアル次第デアリマス、又個人ニ付テ減價償却ヲ考ヘテハドウカト云フ御話デアリマス、是ハ理論トシテ沟ニ御尤デアリマスルガ、個人ニ付テハ正確ニ資本ト云フ觀念ヲ稅法ノ上デ擗ムコトガ困難ナノデアリマス、已ムヲ得ズ現在ノ狀況ニ止シテ居ルノデアリマス、尙ホ今回ノ御話デアリマスカ、此點ヲ國民ニ本議場ヲ通じテ、政府ノ考ヘテ居ラレル點ヲハキリトサニテ、舉國一致ノ態勢ヲ執ル爲ニ宜イト云フ意味デ、此增稅ヲナサツクノデアリマスカ、又サウデハナクテ、政府ノ經濟ヲ賄フ上ニ於テ、收入ノ增加ヲ圖ル爲ノ增稅デアルノデアリマスカ、此點ヲ國民ニ本議場ヲ通じテ、政府ノ考ヘテ居ラレル點ヲハキリトサシテ貰ヒタイノデアリマスガ、總理大臣ニ御話申上ゲタイノデアリマスガ、先程ノ御話ノヤウニオ出マシニナラナイサウデアリマス、書記官長ハ……

○副議長(金光庸夫君) 總理大臣ハ目下重要會議中出席致シ難い趣デアリマス
○森田福市君(續) 其事ハ先程承ッタノデアリマスガ、先程書記官長ガ御見エニナッタス、書記官長ハ……

マスルモノニ付キマシテハ、其心配ハナイモノト考ヘテ居ル次第デアリマス、○副議長(金光庸夫君) 森田福市君居リマスル增稅案ニ關聯致シマシテ、政府當局ニ質シテ見タイト存ズルノデアリマス、國民ノ負擔ノ增加スルコトデアリマスカラ、御尋シテ見タイトハ多岐ニ亘ルノデアリマスルガ、時間ノ關係上成ベク要綱ヲ定メテ簡單ニ御尋申上ゲテ見タイト存ジマス、此度ノ增稅案ヲ政府が御出シニナッタニ付キマシテハ、其法案ノ精神ガ私ハ何レニアルカト云フコトヲ、政府ノ代表者ニ依ヅテ御答ガ願ヒタイ、總理大臣ノ御出席ヲ御願シタノデアリマスガ、御見エニナラナイサウデアリマスカラ、大藏大臣カラデ結構デアリマス、今度ノ增稅ヲオヤリニナックノハ、支那事件ニ關シテ國民一般ニ、此支那事件費ノ負擔ヲ平素ノ負擔ヨリ増加サスベキコトガ、國民精神總動員ノ一端トシテ、舉國一致ノ態勢ヲ執ル爲ニ宜イト云フ

ヤウデアリマスガ、是モ今御見エニナラヌヤウデアリマスカラ、ヤハリ私ハ質問ノ順序トシテ申上ゲテ見マスカラ、政府ノ御方カラ御傳ヘヲ願シテ、機會ノアル時ニ本會議ニスルノハ、屢々本會議ニ於テ、或ヘ其他ニシテ居ラル、ノデアリマス、併ナガラ電力管理案ニ於テモ、又尊ニ上ッテ居リ、近ク本院御提出ニナルヤノ國家總動員法案ニ於テモ、何レモ吾々ノ見ル所デハ、其反對ノヤウニシカ見エナインデアリマス、過日ノ電力管理案ニ對スル總理ノ御答ノ中ニモ見エマスルヤウニ、本案通過ノ爲ニハ相剋摩擦ヲモ敢テ厭ハナイ、斯ウ云フ風ニ仰シヤッテ居ラレルノデアリマス、又戰時體系ノ統制強化ヲ益、助長促進スル爲ノ諸方策ガ、斯ク議會ニ對スル挑戰的態度ニ見エルコトハ、吾々ノ最モ遺憾トスル所ナノデアリマス、總理ノ考ヘテ居ルコトデアルト世間ノ人ガ見テ居ル中ニハ、左ノ如キコトガ一般ニ傳ヘラレテ居ルノデアリマス、現内閣ハ一部統制論者ノ言フガ如ク「イデオロギッシュ」ノ態度デ、一概ニ資本主義ハイケナイ、資本主義ハ誤リノモノデアリ、弊害ヲ齎スモノデアルトシテ、之ニ對シテハ新シイ經濟體系、隨テ政治ノ新體系ヲ作上ゲンケレバナラスト云フヤウナ考デ臨シデ居ラレルノデアル、隨テ資本主義的ナ議會、獨リ貴族院ノミニ止メズ、是ガ漸進的是正ノ方途トシテ、新黨樹立ノ「イニシアチーブ」、自ラ進ンデ積極的ニ取ラウト云フ理想ヲ持ッテ居ルノデアル、其ツノ方法トシテハ、重

要ナル法案ヲ提出協賛ヲ求メ、以テ政府ガ國策遂行上不便デアルト考ヘテ居ラレルヤウナ議論ヲ排スルコトガ出來、ソニニハ政黨間ノ對立及ビ摩擦モ無クナル結果、極メテ能率的ニ政務ヲ掌ルコトガ出來ルト思ウテ居ラル、ト云フコトデアリマスルガ、果シテ左様ナ考デアリマセウカドウカ、此點ハ總理大臣ヨリ、ハツキリトシタ御答ガ願ヒタイト思フノデアリマス

ル總理大臣ノ御考ヲ伺ヒクノアリマス、
以上二點ニ對シテハ、政府ノ御方カラ總理
大臣ニ御傳ヘヲ願シテ、其御返事ヲ拜承致シ
タイト思フノデアリマス

次ニ大藏大臣ニ御尋申上ガタイトノデアリ
マス、先程總理ヘノ御尋ニ對シテモ申上ガ
マシタヤウニ、現政府ノ國策デアル生産ノ
擴充ト増稅トハ、根本ニ於テ政策ニ矛盾ガ
アルノデアリマス、而モ今回ノ增稅ハ產業
資本家ニ對シテ殺人の偏壓ヲ下ス增稅デア
ルト、申上ゲテモ過言デハナイト存ズルノデ
アリマス、恐ラク今回ノ營利法人ノ納ムル稅
ト、營利法人ガ納メマシタ後ニ何程カノ利益
ヲ記入ハ用ヒテダモ免ニテ萬々重ノ所得稅

シテモ私ハ資本其モノニ最モ重キヲ置イテ
行カナケレバナラヌ、其資本ハ金融資本家
カラ産業資本家ガ借り易ク、サウシテ借り
テ金融資本家ニ相當ナ金利ヲ支拂ツテ、サウ
シテ其殘タ金ノ中デ税金ヲ拂フ、其産業資
本家ノ生活ニ耐ヘ得ル程度ノモノナケレ
バナラヌノデアラウト考ヘルノデアリマス、
殊ニ折角近來長足ノ進歩發達シタ我國ノ
産業ヲ、此増税ヲ機會ニ萎縮退變ニ陥レル
コトハ、火ヲ賭ルヨリモ明デアルト考ヘル
ノデアリマス、殊ニ此政府ノ御話ニ、先程
大藏大臣ニ、紫安君カラ御尋ニナシタ答ヲ
私ハ聽取レナカツクノデアリマスガ、所得稅
ノ緩和點ヲ設ケタコトヲ御話ニナリマシタ、
一般所得稅ノ緩和點ハ百分ノ五十ヲ以テシ、
其他ノ稅ヲ加ヘテ十分ノハマデノ稅ヲ課ス
ルト云フ案ラシノデアリマス、所得ノ總
額ノ中カラ十分ノ八ノ諸稅——直接國稅及
ビ地方稅ノ負擔ヲシテ、殘リ二ヲ以テ金利
ヲ賄フ餘地ガアルデアリマセウカ、私ハ恐
ラク是等ノ點ハドウ計算ヲ試ミテ見マシテ
モ國稅ト地方稅、金利ヲ負擔スルコトハ絶
對ニ不可能デアルト考ヘルノデアリマス、
尤モ政府ハ課稅ニ際シテ、大藏大臣ハ株式
配當ノ如キモノハ其十分ノ二ヲ控除シテア
ルカラ、之ヲ持出セバ足ルデハナイカト云
フ御意見ガアルカモ存ジマセヌガ、ソレヲ
加ヘテ以テ漸ク私ハトン／＼ニナルト思ブ
ノデアリマス、十分ノ八ノ緩和點ノ總額ニ
テ、漸ク其資本家ヘトナリニナルモノト
考ヘラレルノデアリマス、隨テ其餘地ハ一
文モナクナル、是デモ産業資本家ガ今後投

産ヲ行フコトガ出来ルデアリマセウカ、生
業ナリ其他ノ軍需工業ガ利益ガアルト假
定致シマシテモ、其悉クヲ取上げテ、尙ホ
生産擴充ノ資金ハ何レカラ得ルノデアリマ
セウカ、寧ロ斯様ナ稅制ヲ起シタガ爲ニ我
國ノ折角長足ニ發達シテ居ル産業ヲ、寂滅
ナラナイト云フヤウナ説明ヲシテ居ラレマ
シタガ、私ハ其點モ政府ノ御話ヲ肯定致シ
兼ネルノデアリマス、株式會社即チ營利法
人、個人ガ資本ヲ集メテ出來タノガ營利法
人デアリマスカラ、營利法人ヲ個人ガ集ミ
テ作ツテ、サウシテ其法人ガ儲ケタ利益ニ對
シテ稅金ヲ拂ツタ殘リヲ、其個人ノ株主ニ配
當スルノデアリマス、其個人株主ニ超過配
當所得稅、或ハ一般ノ所得稅等ヲ納メテ殘
タモノガ、本當ノ資本家ノ手ニ殘ル金デアリ
ルノデアリマス、サウスルト個人ノ所得ト
法人ノ所得トハ、決シテ之ヲ別々ニ勘定ス
ベキ性質ノモノデアリマセヌカラ、答辯ニ
當ラレマシテ、左様ナ矛盾シタ答辯ヲナサ
ラナイヤウニ此點ハ豫メ私ヘ御話ヲ申上ゲ
テ置クノデアリマス

マスカラ、隨て物價へ勢ヒ上ツテ參リマス又其物價ガ上ル爲ニ増稅ヲ加ヘナイ物マデ、道伴レニサレテ物價ノ上ルコトモ、是モ否メナイ點デアラウト考ヘルノデアリマス、隨テ此轉嫁稅デアリマス所ノ色々ノ稅ヲ增稅サレテ、殊ニ物品稅ノ如キモノハ直接ニ物價ヲ高カラシメル原因ヲ起シ、延イテハ物品ガ高クナルト云フコトハ、大衆國民ノ生活ヲ、一層窮迫ニ陥レルコトニナルノデアリマス、殊ニ政府ハ此時局ニ依テ所得ノ増加シタモノカラ之ヲ取ル爲ニ、今度ノ增稅ヲスルノデアルト言ウテ居ラレマスルガ、時局ノ影響ヲ受ケテ利益ヲ得タ者ヨリモ、時局ノ影響ヲ受ケテ其失費ノ重ナツテ居リ、收入ノナイ國民ノ方ガ多數デアルト云フコトハ、御承知デアルノデアリマセウカ、即チ農民デアルトカ、漁民デアルトカ、月給取、日給取、其他勞働者ノ如キ者デ、軍需工業ニ關係シテ居ナイ方面ノ人々ハ、更ニ此際此時局ノ御蔭ヲ受ケテ增收ラシテ居ラヌコトハ、御承知ノ通リデアリマス、隨て是等の人々ノ支出ノ増加、負擔ノ増加バカリヲ受ケセルコトガ果シテ國家社會ノ爲ニ、當ヲ得タ負擔デアルト言ヒ得ルデアリマセウカ、吾々ノ考ヘル所デハ、此時局ノ爲ニ非常ニ所得ノ増加シタ人々ニ對シテ負擔セシメルコトハ、他ニ幾ラデモ方法ガアルト考ヘラレルノデアリマス、收入ノ増加ノナイ方面ノ人々ニ、負擔ヲ多クサスヤウナコトハ、此際考慮ヲ瓦リマスル以上ハ、一層國民ノ生活ヲ安定以デアルト私ハ考ヘルノデアリマス(拍手)

殊ニ月給取ニ於キマシテハ、昭和五年デアッタ考ヘマスルガ、或ル程度ノ減俸ヲ断行シテ、今尙ホ復活シテ居ナイヤウニ考ヘテ居ルノデアリマス、隨て政府ハ一部ノ國民ノ收入ノ増加ヲ來セル爲ニ、前段申上ゲマシタヤウナ、收入ノ増加セザル國民ニ重キ負擔ヲサスト云フコトハ、一層考慮ヲシテ戴キタイ、大藏當局ハ一體ドノ邊ニ目安ヲ置イテ、本增稅策ヲ作り上ゲラレタノデアリマセウカ、此點ヲ明瞭ニ願ヒタイト存ジマス(拍手)

第三點ハ、斯クシテ物價ヲ高クセシメラレマシタ結果ハ、輸出ヲ自然ニ阻止スルコトニナルト云フコトヘ御認メニナリマスカ、増稅ヲ行フコトニ依テ物價ガ上リマスレバ、勢ヒ勞働質或ハ原料モ值上リヲ來スノデアリマス、其結果ハ輸出品ノ「コスト」ヲ上げルコトハ、是モ明瞭デアリマス「コスト」ヲ引上ゲルコトニナル結果既ニ此增稅ヲ行ハヌデモ日ニ月ニ物價ガ上ツテ居ラヌル關係上、昨年ノ十一月以來月々輸出ハ減退シテ居ルコトモ、政府ハ御承知ノ通リデアリマス、ソレハ何ノ爲デアルカト云ヘバ、大部分ハ生産「コスト」ガ上ル關係ガ多イト思ヘル所デハ、此時局ノ爲ニ非常ニ所得ノ増加シタ人々ニ對シテ負擔セシメルコトハ、他ニ幾ラデモ方法ガアルト考ヘラレルノデアリマス、收入ノ増加ノナイ方面ノ人々ニ、負擔ヲ多クサスヤウナコトハ、此際考慮ヲ瓦リマスル以上ハ、一層國民ノ生活ヲ安定以デアルト私ハ考ヘルノデアリマス(拍手)

ナル處ノアルコトニ對スル政府ノ對策ヲ承リタイノデアリマス

第四點ノ御尋ハ、增稅ノ立案ヲスルニ際シマシテ、更ニ產業資本家ヲ偏壓シ、金融資本家ヲ偏護セラレタ點ハ、先程ノ紫安君ノ御質問ニ對シテ御答ガアッタノデアリマスガ、私ハノ御答デハ満足ハ出來ナイノ戴キタ、大藏當局ハ一體ドノ邊ニ目安ヲ置イテ、本增稅策ヲ作り上ゲラレタノデアリマセウカ、此點ヲ明瞭ニ願ヒタイト存ジマス(拍手)

トニナルト云フコトヘ御認メニナリマスカ、増稅ヲ行フコトニ依テ物價ガ上リマスレバ、勢ヒ勞働質或ハ原料モ值上リヲ來スノデアリマス、其結果ハ輸出品ノ「コスト」ヲ上げルコトハ、是モ明瞭デアリマス「コスト」ヲ引上ゲルコトニナル結果既ニ此增稅ヲ行ハヌデモ日ニ月ニ物價ガ上ツテ居ラヌル關係上、恐ラク營業収益稅ト第一種所得稅ヲ納メテ居ラヌノデアリマス、此事ハ政府ハ御承知デアルテ、機會アル毎ニ改正スルト言ヘレテ居ラヌルガ、今尙ホ改正ニナシテ居ラヌノデアリマス、然ルニ今又再び此増稅ヲ載スルニ當ツテ、金融資本家ノ持ツテ居ル公債、社債等ニ對シテハ、更ニ增稅ヲ付ス、ソレハ何ノ爲デアルカト云ヘバ、大部分ハ生産「コスト」ガ上ル關係ガ多イト思ヘル所デハ、此時局ノ爲ニ非常ニ所得ノ増加シタ人々ニ對シテ負擔セシメルコトハ、他ニ幾ラデモ方法ガアルト考ヘラレルノデアリマス、收入ノ増加ノナイ方面ノ人々ニ、負擔ヲ多クサスヤウナコトハ、此際考慮ヲ瓦リマスル以上ハ、一層國民ノ生活ヲ安定以デアルト私ハ考ヘルノデアリマス(拍手)

居ラレルノデアリマセウカ、此輸出減退ニ

ナル處ノアルコトニ對スル政府ノ對策ヲ承リタイノデアリマス

第四點ノ御尋ハ、增稅ノ立案ヲスルニ際シマシテ、更ニ產業資本家ヲ偏壓シ、金融資本家ヲ偏護セラレタ點ハ、先程ノ紫安君ノ御質問ニ對シテ御答ガアッタノデアリマスガ、私ハノ御答デハ満足ハ出來ナイノ戴キタ、大藏當局ハ一體ドノ邊ニ目安ヲ置イテ、本增稅策ヲ作り上ゲラレタノデアリマセウカ、此點ヲ明瞭ニ願ヒタイト存ジマス(拍手)

トニナルト云フコトヘ御認メニナリマスカ、増稅ヲ行フコトニ依テ物價ガ上リマスレバ、勢ヒ勞働質或ハ原料モ值上リヲ來スノデアリマス、其結果ハ輸出品ノ「コスト」ヲ上げルコトハ、是モ明瞭デアリマス「コスト」ヲ引上ゲルコトニナル結果既ニ此增稅ヲ行ハヌデモ日ニ月ニ物價ガ上ツテ居ラヌル關係上、恐ラク營業収益稅ト第一種所得稅ヲ納メテ居ラヌノデアリマス、此事ハ政府ハ御承知デアルテ、機會アル毎ニ改正スルト言ヘレテ居ラヌルガ、今尙ホ改正ニナシテ居ラヌノデアリマス、然ルニ今又再び此増稅ヲ載スルニ當ツテ、金融資本家ノ持ツテ居ル公債、社債等ニ對シテハ、更ニ増稅ヲ付ス、ソレハ何ノ爲デアルカト云ヘバ、大部分ハ生産「コスト」ガ上ル關係ガ多イト思ヘル所デハ、此時局ノ爲ニ非常ニ所得ノ増加シタ人々ニ對シテ負擔セシメルコトハ、他ニ幾ラデモ方法ガアルト考ヘラレルノデアリマス、收入ノ増加ノナイ方面ノ人々ニ、負擔ヲ多クサスヤウナコトハ、此際考慮ヲ瓦リマスル以上ハ、一層國民ノ生活ヲ安定以デアルト私ハ考ヘルノデアリマス(拍手)

居ラレルノデアリマセウカ、此輸出減退ニ

ナル處ノアルコトニ對スル政府ノ對策ヲ承リタイノデアリマス

第四點ノ御尋ハ、增稅ノ立案ヲスルニ際シマシテ、更ニ產業資本家ヲ偏壓シ、金融資本家ヲ偏護セラレタ點ハ、先程ノ紫安君ノ御質問ニ對シテ御答ガアッタノデアリマスガ、私ハノ御答デハ満足ハ出來ナイノ戴キタ、大藏當局ハ一體ドノ邊ニ目安ヲ置イテ、本增稅策ヲ作り上ゲラレタノデアリマセウカ、此點ヲ明瞭ニ願ヒタイト存ジマス(拍手)

トニナルト云フコトヘ御認メニナリマスカ、増稅ヲ行フコトニ依テ物價ガ上リマスレバ、勢ヒ勞働質或ハ原料モ值上リヲ來スノデアリマス、其結果ハ輸出品ノ「コスト」ヲ上げルコトハ、是モ明瞭デアリマス「コスト」ヲ引上ゲルコトニナル結果既ニ此增稅ヲ行ハヌデモ日ニ月ニ物價ガ上ツテ居ラヌル關係上、恐ラク營業収益稅ト第一種所得稅ヲ納メテ居ラヌノデアリマス、此事ハ政府ハ御承知デアルテ、機會アル毎ニ改正スルト言ヘレテ居ラヌルガ、今尙ホ改正ニナシテ居ラヌノデアリマス、然ルニ今又再び此増稅ヲ載スルニ當ツテ、金融資本家ノ持ツテ居ル公債、社債等ニ對シテハ、更ニ増稅ヲ付ス、ソレハ何ノ爲デアルカト云ヘバ、大部分ハ生産「コスト」ガ上ル關係ガ多イト思ヘル所デハ、此時局ノ爲ニ非常ニ所得ノ増加シタ人々ニ對シテ負擔セシメルコトハ、他ニ幾ラデモ方法ガアルト考ヘラレルノデアリマス、收入ノ増加ノナイ方面ノ人々ニ、負擔ヲ多クサスヤウナコトハ、此際考慮ヲ瓦リマスル以上ハ、一層國民ノ生活ヲ安定以デアルト私ハ考ヘルノデアリマス(拍手)

居ラレルノデアリマセウカ、此輸出減退ニ

輸入ニノミ重キヲ置イテ居ラル、ノデアリマス、輸入ニノミ重キヲ置イテ居ラル、ケレドモ、私ハ政府ノ考へ方ヲヘキリト變ヘテ貰ヒタク、輸入ト云フコトニ重キヲ置カズ、政府ノ國策ヲ輸出ニ重キヲ置カレ、ベ、爲替ノ問題ハ自然ニ解消スルト思フノデアリマス（拍手）寧ロ今日輸出ガ減退シテ居リ、國內物價ガ上シテ居ル時ニハ、爲替ノ下落スルコトニ依ツテ、輸出ガ仕易クナルコトハ申ス迄モアリマセヌ、隨テ爲替ガ下落ヲシテ、我國ノ輸出ガ相當量ニ多クナツテ、輸入スル金額ヨリモ輸出スル金額ノ方ヲ多くサスヤウニスルコトニ依ツテ、國際收支ノ均衡ヲ取り得ルノデアリマス、政府ハ輸入ノコトニノミ頭ヲオ痛メニナラズ、寧ロ輸出ノ方面ニ力ヲ盡シテ戴キタイ、即チ今オヤリニナツテ居ルヤウナ、輸入ヲ一カラ十マデ阻止スルコトハ廢メテ戴キタイ、現在ハ原料ヲ輸入シテ、之ニ我國ノ原料ヲ加へ、之ニ労働者ノ加工賃ヲ加へテ輸出スルト云フコトヲ阻止ナサツテ居ルノデアリマス（イラク）ノ國ノ如キハ、御承知ノ通リニ我國ガ十万圓アノ國カラ買へバ、彼ノ國ハ我國カラ四十万圓買フト云フ約束ニナツテ居ルノデアリマスガ、其十万圓ノ物ヲ買フ爲替ヲ許可セラレヌガ爲ニ、アノ國ガ我國カラ四十分圓ノ物ヲ買ハナカツタコトモ明カデハアリマセヌカ、是等ノ點ニ關シテ、私ハ是等ガ官僚政治ノ弊ノ甚シイモノデアツテ、官僚政治志二片ヲ維持スル爲ニ、有リモシナイ正貨ヲドン／＼外國へ出シテ行クコトガ、本當ニ國家ノ爲ニナルカナラスカト云フコトニ居ルノデアリマス（拍手）爲替政策トシテ一志ニ付テハ、大藏大臣ハ深甚ノ考慮ヲ私ハ願ヒ

タイト考ヘルノデアリマス、寧ロ私ハ爲替相場ノ維持ト云フコトヲ考ヘ直シテ戴キタイ、サウシテ爲替相場ガ多少下落シテモ、ソレハ輸出ニ便利ニナツテ行クカラ、輸出ノ方ニ重キヲ置イタ政策ヲ執ツテ戴キタイ、サウシテ正貨ノ流出スルコトヲ少クスルヤウナ方法ノ御考ハナイカト云フコトデアリマス

ラク吾々ノ見ル所ヲ以テセバ、最低モ五
分、最高モ二割程度ノ物價ハ上ルモノト
見ナケレバナリマセヌ、七十億ノ消費ヲスル
所ノ政府ガ、假ニ物價ガ五分上タト致シマ
スレバ、三億五千萬圓、一割上レバ、七億
圓ノ物價高ニ依ル支出ノ増加ヲ致スカ、然
ラザレバ豫定ノ事業若クハ軍事行動ノ實行
ヲ狹メテ行クカノドチラカニナラナケレバ
ナリマスマイガ、何レニシテモ、物ガ高ク
ナツタダケハ豫定ノ豫算ヲ以テ賄ヒ切レス
ト云フコトハ、大藏大臣モ御認メニナルデ
アラウト思フノデアリマス、サウスルト、
右ノ手デ國民カラニ一億圓乃至三億圓ノ稅增
收ヲ圖ッタ致シマシテモ、左ノ手デ三億五
千万圓乃至七億圓ノ支出ノ増加ヲ來スヤウ
ナコトヲ致シマスカ、或ハ事業ヲ縮小致シ
マスカ、ドチラニ致シマシテモ、ソレガ假
ニ收入ト支出トが均衡ガ取レクトシテモ、
是ガ物價高ヲ誘致シタ爲ニ、政府以外ノモ
ノニ物價高ニ依ル苦ミヲ増スコトダケデモ
大キナ損デハアルマイカト考ヘルノデアリ
マス(拍手)恐ラク政府ハ稅收入ニ依ヅテ得
タ金ヨリモ、物價高ニ依ツテ支出ノ増加ヲ來
ス方ノ損失ガ多イト云フコトハ明瞭デアラ
ウト私ハ考ヘルノデアリマス、一部ノ聲ニ
脅カサレテ增稅ヲ斷行シ、以テ何程カノ收
入ノ増加ヲ來シタ代リニ、大キナ政府拂ノ
損失ヲ起スヤウナ原因ヲ御作リニナルト云
フコトハ、非常ナ考ヘ物デアルト思フノデ
アリマス、大藏大臣ハ此增稅ニ依ツテ得タ金
ト、物價高ニ依ヅテ豫算ヨリモ多ク失フト
云フ點ニ付テハ、如何ナル御考ヲ持ツテ居
ラレルノデアリマセウカ、其點吾々ニ得心
ノ行クヤウナ御答ガ願ヒタイト存ズルノデ
アリマス

第七番ハ本増税案ノ中ニ、臨時利得税ノ改正法律案ヲ上程シテ居ル點ニ付テ伺ヒタ
イノデアリマス、現在ノ臨時利得税ハ、昭和四、五、六年ノ基準年度ヲ持ツテ居ル利得
税デアリマス、今度政府ガ新ニ設ケラレマ
斯臨時利得税ハ昭和九、十、十一年ヲ基準
年度トスル臨時利得税デアリマス、政府ハ
此前者ノ利得税ト後者ノ利得税ハ決シテ重
複デハナイト云フコトヲ何レノ機會、何
レノ場所ニ於テモ仰シヤツテ居ラレルノ
レノ申上ゲタイノデアリマス、大藏大臣ハ二
重ニナル點ハナイト仰シヤツタノデアリマ
スガ、二重ニナル點ガアリ、而モ免ル、點
ガアリ、最初ノ基準年度ヲ持タズ、次ノ基
準年度ヲ持ツテ居ルモノト、即チ最初ノ基
準年度カラ取ラレテ居ルモノト、然ラザル
モノ、前者ハ資本ノ百分ノ七以上、今度
ノハ資本ノ百分ノ十以上、一割デアリマ
ス、其間ノ三分ハ基準年度ヲ持ツテ居ラ
ス、新基準年度カラダケノモノハ是ハ免ル、
ノデアリマス、然ラザルモノハ免レヌコト
ニナルノデアリマスカラ、此點ガ二重ニナ
ルモノト然ラザルモノト、不公平ナ稅ノ負
擔ヲ受ケルコトダケハ、今御出シニナッテ居
ル稅法ヲ其儘咀嚼シテ行ッタナラバ何トシ
テモ免レヌノデアリマス、又複雜極マル案
デアリマシテ、恐ラク大藏大臣ト雖モ、私
ハ此案ニ對シテ「メモ」ヲ持タズニ完全ナ御
答ハ難カシイノデハナイカト思フ、殊ニ今
度ノ免稅點ニ付テ吾々ガ一番遺憾ニ思ツテ
居ルノハ、法人ニ於テハ資本ヲ認メテ居
ル、法人ノ基準年度ヲ持タナイモノニ對シ
テハ、百分ノ十ヲ超過スルモノニ對シテ百

分ノ三十ノ課稅ヲスルト仰シヤルガ、個人ノ利得稅ニ對シテハ、一ツノ資本モ御認メニナツテ居ラヌ即チ五千圓ヲ超ユル個人ニ對シテハ、一律對等ニ百分ノ二十ノ課稅ヲスルト仰シヤルノデアリマス、サウ致シマスト、營利法人ガ百万圓ノ資本ヲ以テ十万圓ノ所得ヲ舉ゲルコトハ普通デアリマス、此普通ノ場合ニハ、第三番目ノ臨時利得稅ハ免レルノデアリマス、然ルニ個人ガ百万圓ノ資本ヲ運用シテ十万圓ヲ儲ケレバ、九万五千圓ニ對スル百分ノ二十ノ稅ヲ拂フカラテ、一万九千圓ト云フ稅ヲ負擔スルコトニナルノデアリマス、是等ノ點ガ不公平ナ稅デナクシテ何ヲ公平ト云フノデアリマセウカ、私ハ此臨時利得稅ハ、恐ラク完全ニ此基準年度ヲ計算サスコトハ、此新年度カラ實行スルノニ、此基準年度ノ所得ヲ計算スルコトダケデモ、完全ニハ行ヒ切レスモノデアルガ、況シテ二重課稅ニナラザルモノト、免レスモノトノ計算ハ、一線ニ立ツテ居ル稅務官吏ニハ不可能ナコトデアルト考ヘデアルガ、何故此臨時利得稅ヲ政府ハ一ツニ單純化サレナカツタノデアリマスカ、基準年度ヲ簡單ニ一ツニシ、之ヲ單純化シテ課稅ヲ行ヘバ、徵稅ヲ行フ出先ノ官吏、課稅ヲ受ケル所ノ國民モ簡單ニ分ルノデアリマス、殊更複雜多岐ニワラシメラレタ理由ガ拜承致シタインヂアリマス。

最後ニ御尋申上ゲル點ハ、私ハ大藏大臣自ラモ御記憶ニナツテ居ルデアラウト考ヘマスガ、國民ノ一ツノ所得ニ對シテ、現在デモ複雜多岐ニ瓦ツテ居ル稅種類ヲ、今又増稅ニ名ヲ藉リテ一層複雜化セシメテ居ラルコトヲ甚ダ遺憾ニ思フノデアリマス、昨年ノ通常議會ニ於テ、時ノ結城藏相ニ依ツテ大藏大臣ノ手ニ於テ增稅ヲ行ヘタコトモ御承知ノ通リデアリマス、然ルニ一年經ツヤ經タヌ今日、今又茲ニ增稅ヲ行ハウト云。法案ヲ御出シニナツタノデアリマセウニモ大藏當局ハ稅制ニ對スル見透シガ全然付イテ居ラヌノデアリマス、サウシテ何時モ御出シニナル案ガ臨時的ノ立法ノミデアリマシテ、稅ノ種類ト云フモノガ非常ニ複雜ニナツテ來タノデアリマス、前段ニモ申シマシタヤウニ、假ニ政府ガ稅率ヲ上げテモ、私ハ稅收入ノ增收ヲ圖ラウトスルコトハ難カシイノデナイト考ヘルノデアリマス、一般國民ノ所得ヲ增加セザル政策ノ下ニ於テ、稅率ヲ上げタダケデ國ノ稅收入ガ殖エルト思ツテ居ラレルノデアリマセウカ、一月給取、或へ一日給取ガ、其月給ニモ、其日給ニモ一ツノ增收ガナクシテ、平素ノ通リ酒ニシテモ、煙草ニシテモ、或へ其他ノ消耗品ニシテモ消費ガ出來ルデアリマセウカ、苟モ自分ノ收入ガ増シテ居ラヌノニ、消費スル物ノ價ダケガ上ツタノデアリマスカラ、私ハ此臨時利得稅ヲ計算サスコトハ、假ニ政府ガ稅率ヲ上ゲタダケデ國ノ稅收入ガ殖エルト思ツテ居ラレルノデアリマスガ、吾々ノ見ル所デハ、今ノ下ニ、國民ニ得心ヲ與ヘテ負擔サスコトガ、一番適正デナイト考ヘルノデアリマス（拍手）寧ロ此際政府ハ此案ヲ出直ス考ハナイカ、要スルニ單純化サンタ法律其モノ下ニ、國民ニ得心ヲ與ヘテ負擔サスコトガ、一月給取、或へ一日給取ガ、其月給ニモ、其日給ニモ一ツノ增收ガナクシテ、平素ノ通リ酒ニシテモ、煙草ニシテモ、或へ其他ノ消耗品ニシテモ消費ガ出來ルデアリマセウカ、苟モ自分ノ收入ガ増シテ居ラヌノニ、消費スル物ノ價ダケガ上ツタノデアリマスカラ、私ハ此臨時利得稅ヲ計算サスコトハ、假ニ政府ガ稅率ヲ上ゲタダケデ國ノ稅收入ガ殖エルト思ツテ居ラレルノデアリマスガ、吾々ノ見ル所デハ、今ノ下ニ、國民カラ相當多額ナ增稅ヲ得心ヲ

アルト考ヘルノデアリマスガ、一旦出シタ法案デアルカラ、其善惡ノ如何ヲ問ハズ、非常時ニ名ヲ藉リテ、舉國一致ノ美名ノ下ニ、本案ヲ通過サセルコトガ、面目ヲ維持スル所以アルト御考ニナツテ居ルノデアリマセウカ、私等ノ考ヘマスル所デハ、結局國ノ經濟カラ考ヘマスレバ、又負擔スル所ノ國民ノ立場カラ考ヘマスレバ、此稅種類ハ本當ハ地方ト中央ヲ通ジタ整理ヲ行ウテ、國民ノ所得ニ對シテヘ、一ツノ單純化シタ稅法ノ下ニ、國民ニ得心ヲ與ヘテ負擔サスコトガ、一月給取、或へ一日給取ガ、其月給ニモ、其日給ニモ一ツノ增收ガナクシテ、平素ノ通リ酒ニシテモ、煙草ニシテモ、或へ其他ノ消耗品ニシテモ消費ガ出來ルデアリマセウカ、苟モ自分ノ收入ガ増シテ居ラヌノニ、消費スル物ノ價ダケガ上ツタノデアリマスカラ、私ハ此臨時利得稅ヲ計算サスコトハ、假ニ政府ガ稅率ヲ上ゲタダケデ國ノ稅收入ガ殖エルト思ツテ居ラレルノデアリマスガ、吾々ノ見ル所デハ、今ノ下ニ、國民ニ得心ヲ與ヘテ負擔サスコトガ、一月給取、或へ一日給取ガ、其月給ニモ、其日給ニモ一ツノ增收ガナクシテ、平素ノ通リ酒ニシテモ、煙草ニシテモ、或へ其他ノ消耗品ニシテモ消費ガ出來ルデアリマセウカ、苟モ自分ノ收入ガ増シテ居ラヌノニ、消費スル物ノ價ダケガ上ツタノデアリマスカラ、私ハ此臨時利得稅ヲ計算サスコトハ、假ニ政府ガ稅率ヲ上ゲタダケデ國ノ稅收入ガ殖エルト思ツテ居ラレルノデアリマスガ、吾々ノ見ル所デハ、今ノ下ニ、國民カラ相當多額ナ增稅ヲ得心ヲ

アルト考ヘルノデアリマスガ、一旦出シタ法案デアルカラ、其善惡ノ如何ヲ問ハズ、非常時ニ名ヲ藉リテ、舉國一致ノ美名ノ下ニ、本案ヲ通過サセルコトガ、面目ヲ維持スル所以アルト御考ニナツテ居ルノデアリマスガ、吾々ノ見ル所デハ、結局國ノ經濟カラ考ヘマスレバ、又負擔スル所ノ國民ノ立場カラ考ヘマスレバ、此稅種類ハ本當ハ地方ト中央ヲ通ジタ整理ヲ行ウテ、國民ノ所得ニ對シテヘ、一ツノ單純化シタ稅法ノ下ニ、國民ニ得心ヲ與ヘテ負擔サスコトガ、一月給取、或へ一日給取ガ、其月給ニモ、其日給ニモ一ツノ增收ガナクシテ、平素ノ通リ酒ニシテモ、煙草ニシテモ、或へ其他ノ消耗品ニシテモ消費ガ出來ルデアリマセウカ、苟モ自分ノ收入ガ増シテ居ラヌノニ、消費スル物ノ價ダケガ上ツタノデアリマスカラ、私ハ此臨時利得稅ヲ計算サスコトハ、假ニ政府ガ稅率ヲ上ゲタダケデ國ノ稅收入ガ殖エルト思ツテ居ラレルノデアリマスガ、吾々ノ見ル所デハ、今ノ下ニ、國民カラ相當多額ナ增稅ヲ得心ヲ

（拍手）

〔國務大臣賀屋興宣君登壇〕

○國務大臣（賀屋興宣君） 私ニ對シマスル御質問ニ付キマシテ御答申上ゲマス、增稅ノ目的ハ何處ニアルカト云フ御話デアリマス、增稅ノ目的ハ、舉國一致全國民ガ此時テ退職手當ヲ貰フ官吏、若クハソレ等ノ人々ニ準ズル人々カラモ、此退職手當ニ對スル課稅ヲ爲スペキコトガ公平デナイト、大藏大臣ハ考ヘルノデアリマセウカ（拍手）此點ヲ大藏大臣カラ、御答ヲ願ヒタイト存ジマス（拍手）隨テ今カラ政府ハ恒久的ノ稅制ノ下ニ、國民カラ相當多額ナ增稅ヲ得心ヲ

（拍手）

依ッテ此戰費ノ調達ニ貢獻ヲスルト云フ精
神ガ、一番大切ニ點デアリマス、又併セテ
經濟財政上ニモ貢獻ヲスル所ガアル譯デア
リマス、數十億ノ公債ヲ出シマスル場合デ
アリマスルカラ、動モスレバ氣ガ大キクナ
ルノデアリマスルガ、是ハ事變後國民ニ負
擔ヲ遺スモノデアリマスルカラ、出來ルダ
ケ現代ノ國民ハ負擔ヲ爲シ、サウシテ後代
ノ國民ニ對シテ其負擔ヲ少クスルト云フコ
トヲ努メルノガ、財政上ノ本旨デアリマス、
又斯ル増稅ノ精神的效力トシテ、合理的ナ
ル消費ノ節約ヤ、此際ニ於ケル放漫ナル思
想ヲ戒シメマスルヤウナコトハ、國家ノ經
濟狀態ヲ良好ニ導クノニ與ツテ力ガアルノ
デアリマス、左様ナ考ノ下ニ今回ノ增稅ヲ
企テタ次第デアリマス

ラズ、政府ノ方ニ於キマシテモ、此點ニ關シマシテハ十分ニ注意ヲ致シマシテ、當業者ニ明ニ其自覺ヲセシメルヤウニ努メル積リデアリマス、又之ニ違反ヲ致シマス者ニハ、十分ナル取締ヲ致ス積リデアリマス。次ニ一般ノ所得ノ増加セザル者ニ付テモ負擔ガ及ブト云フ御話デアリマスルガ、是ハ御話ノ如ク及ビマスル場合モアリマスルガ、國民全般ガ時局ニ對シテ犠牲ヲ拂フト云フ精神カラ、此點ハ已ムヲ得ヌコトト存ズルノデアリマス、此大ナル時艱ヲ克服致シマスノニ、總テ平常通リニハ遺憾ナガラ参リマセヌ次第デアリマス、併ナガラ尙ホ時局ニ依リマシテ著シク影響ヲ被リマス人々ニ對シテハ、先刻申上ゲマシタ如ク、若干ノ減稅計畫モ考ヘテ居ル次第デアリマス。

シカラヌ現象ヲ起スノデアリマス、金融資本家ソレ自身ニ致シマシテモ、近來低金利ノ打撃ニ依リマシテ、甚シキ利得ヲ得タト云フ實情ハゴザイマセヌノデ、ソレハ斯ル會社ノ株式ト產業關係ノ株式トノ値段ヲ見マシテモ、此點ハ分ルコトト考ヘルノデアリマス

尙ホ資金調整法ハ獨リ公債ノ消化ノミナラズ、時局ニ有用ナル產業ノ方面ニ資金ノ供給ヲ圖ルコトヲモ、主眼ト致シテ居ルノデアリシテ、兩々相俟ッテ此方面ニ貢獻ヲシタイト思フノデアリマス

又爲替相場ノ維持ニ付キマシテモ御臺デアリマスルガ、是ハ只今ノ所デハ、爲替相場ヲ引下ゲマシテモ、輸出ニ貢獻ヲ致シマスクトハ、國際間ノ經濟事情ニ於キマシテ、多キヲ望ムコトハ出來ナイト思フノデアリマス、輸入ニハ御承知ノ如ク損失ヲ致シマスルノデ、國際收支ノ改善ニ付キマシテハ、貢獻スル所ナキノミナラズ、一タビ斯様ナ政策ヲ執リマスルコトハ、國內ノ經濟界ヲ混亂シ、庶民階級ノ生活ニ重大ナル脅威ヲ與フルノ虞ナキニシモアラズト考ヘテ居ルノデアリマス、何レノ戦爭ノ場合ニ於キマシテモ、歐洲諸國ニ於キマシテモ、米國ニ於キマシテモ、戰時中ハ爲替相場ノ維持ニ主力ヲ注イデ居ルノデアリマス、必ズ是ハ現在ノ政策ヲ維持スルノ必要ヲ感ジテ居ルノデアリマス

尙ホ此増稅ノ結果、物價ヲ騰貴セシメテ、歲出ヲ増加セヌカト云フ御心配デアリマス、是等ノ點モ十分考慮致サナケレバナラヌ點デアルノデアリマスガ、只今ノ課稅物品ヘ、政府ノ消費致シマスル物ハ極メテ少イノデアリマシテ、且ツ軍需品等ハ物品特別稅等

ヲ課セナイコトニ致シテアリマスノデ、此點ハ御尤ナ心配デアリマスルガ、斯様ナ惡影響ハナイト存ズルノデアリマス

臨時利得稅ニ付キマシテハ、必ズ二重ニモナリマセヌシ、又免レルモノモナイノデアリマス、新シキ法人等ニ於キマシテモ、アリマス、新シキ法人等ニ於キマシテモ、

一割以上ハ新率ニ依ルノデアリマス、又一割以上ノ分ニ付キマシテハ、新率ト舊率ハ重複シテ課稅シナイノデアリマスカラ、二重課稅ニハナラナイコト考ヘテ居ルノデアリマス

又個人ニ付キマシテノ御說デアリマスルガ、是ハ御議論甚ダ御尤ナ所ガアルト考ヘルノデアリマス、併ナガラ個人ニ付キマシテハ、資本金額ヲ捉フルコトガ容易デアリマセヌノデ、止ムヲ得ズ斯様ナ立法ニ致シタノデアリマスルガ、今回ハ五千圓以上ノ利得ニシテ、且ツ所得ガ一万圓ヲ超ユル場合ニノミ課稅ヲ致スコトニシ、相當ノ緩和ヲ圖リタイ意思デアルノデアリマス

尙ホ此稅法ハ甚ダ複雜デアルノデアリマスルガ、是ハ執務ノ實際ニ當リマシテハ、色々事務的ニ緩和ヲ致シマシテ、成ベク簡明ニ何人ニモ分リ易イヤウナ方針ヲ執ラウト思フノデアリマス

更ニ今回ノ提案デハアリマセヌガ、先般ノ部分的ノ稅法ノ改正ノ際ニ於ケル提案中、五千圓以上ノ退職手當ニ對シテ課稅ヲスルト云フ案ガアリマスルガ、是ノ動機ハ別ニ御示ノ如ク官吏ニ利益ヲ與フルト云フ風ナ考ハ毫モアリマセヌ、官吏ハ中々四千圓トカ五千圓トカ云フ退職手當ニナル場合ハ極メテ少イ、遙ニ平均ハ其下ナノデ

アリマス、此五千圓ト云フ目安ハ、急激ニ一時ノ所得ニ對シテ、少額ノモノ迄モ徵稅スルコトヲ避ケマシタ以外ニ他意アリマセヌ、何卒御諒承ヲ願ヒタイト存ズルノデアリマス(拍手)

○森田福市君 簡單デゴザイマスカラ此席カラ御許ヲ願ヒマス

○副議長(金光庸夫君) 許可致シマス

○森田福市君 只今ノ大藏大臣ノ御答辯ニ對シマシテハ、殆ド全部肯定致シ兼ネルノデアリマスガ、就中一點ダケ申上ゲテ置キ打切ルト言ッタ點ニ對シテ、大藏大臣ハ十分

ノ七デアルト御答ニナタノデアリマス、アタイト思ヒマス、私ガ總所得ノ十分ノ八デルノ方ノへ所得稅、超過所得、臨時所得稅、此三ツヲ合シテ十分ノ七ニナッテ居ルノデアリマス、此外ニ營業收益稅或ハ資本稅等ヲ加算致シマスレバ、十分ノ八以上ニナルノデアリマス、計算ダケヘ間違ハナイヤウニ、正確ナ御答辯ヲセラレンコトヲ希望致シテ置キマス(拍手)

(國務大臣賀屋興宣君登壇)

○國務大臣(賀屋興宣君) 只今御示シノ營業收益稅等モ加算致シマシテ、普通法人ニ於キマシテハ十分ノ七デアリマス、是等ハ詳細ナ檢討ヲ要シマスノデ、尙ホ委員會ニ於キマシテ詳シク申上ガタイト存ジマス

○副議長(金光庸夫君) 矢野庄太郎君登壇

○副議長(金光庸夫君) 矢野庄太郎君登壇

兩君ノ質問ハ巨細ニ至リ

マシテ、私ノ間ハント欲スル所ハ殆ド無イ

ノデアリマス、併シ尙ホ二三ノ點ニ付テ政府ノ答辯ガ不十分デアツト感ゼラレル事柄ニ付テ、重複デアリマスケレドモ質問ヲ致シテ見タイト思ヒマス

森田君カラ指摘サレタヤウニ、今度ノ增稅ノ金額ハ三億圓デアルケレドモ、實ハ二億圓ノ增稅ニナルノデアリマス、ソレニ對シテ後ニ現レテ來ル所ノ軍事費ヲ見ルト、

又、何卒御諒承ヲ願ヒタイト存ズルノデアリマス、此四十八億數千万圓ニ上ルト云フコトデアリマス、此四十八億數千万圓ノ歲出ニ對シテ、僅ニ二億圓ノ增稅ヲスルト云フノデアリマス、百圓費用ガ要ルノニ四圓ダケ稅金ヲ取ツ

マス、此四十八億數千万圓ノ歲出ニ對シテ、新闻ノ記事竝ニ大藏大臣ノ説明ニ依レバ、

四十八億數千万圓ニ上ルト云フコトデアリマス、此四十八億數千万圓ノ歲出ニ對シテ、僅ニ二億圓ノ增稅ヲスルト云フノデアリマス、

ス、百圓費用ガ要ルノニ四圓ダケ稅金ヲ取ツマス、此四十八億數千万圓ノ歲出ニ對シテ、

マス、此四十八億數千万圓ノ歲出ニ對シテ、僅ニ二億圓ノ増稅ヲスルト云フノデアリマス、

ス、百圓費用ガ要ルノニ四圓ダケ稅金ヲ取ツマス、此四十八億數千万圓ノ歲出ニ對シテ、

マス、此四十八億數千万圓ノ歲出ニ對シテ、僅ニ二億圓ノ増稅ヲスルト云フノデアリマス、

ス、百圓費用ガ要ルノニ四圓ダケ稅金ヲ取ツマス、此四十八億數千万圓ノ歲出ニ對シテ、

マス、此四十八億數千万圓ノ歲出ニ對シテ、僅ニ二億圓ノ増稅ヲスルト云フノデアリマス、

ス、百圓費用ガ要ルノニ四圓ダケ稅金ヲ取ツマス、此四十八億數千万圓ノ歲出ニ對シテ、

マス、此四十八億數千万圓ノ歲出ニ對シテ、僅ニ二億圓ノ増稅ヲスルト云フノデアリマス、

ナイカト思フノデアリマス

次ニ大藏大臣ハ、增稅ノ目標ハ財政的デアリ、又經濟的デアルト云フコトヲ答辯シテ居ルノデアリマスルガ、其答辯タルヤ極メテ曖昧デアッテ、ハッキリ致シマセヌ、今少シ明瞭ニ財政的ノ目標、經濟的ノ目標ガ何處ニアルカト云フコトヲ此處デ聲明ラシテ、國民ニ此處マデヘ稅金ヲ取ルノダ、此主義デ增稅ヲスルノダト云フコトヲ、納得サセル必要ガアルト思フノデアリマス、吾々ノ

同志ニ依シテ、曾テ增稅ヘ赤字公債ノ利子ヲ賄フ爲ニ、增稅ヲスベキデアルト云フコトヲ此席上ニ於テ主張サレタコトガアリマス

ガ、ソレハ最早過去ノ夢デアッテ、今日私共ハダケ増稅ヲスルト云フノデアルカラ、增稅ノ目標ガ何處ニアルカト云フコトヲ、先ツ

カ、百圓費用ガ要ルト云フノニ、僅ニ四圓カ、百圓費用ガ要ルト云フノニ、僅ニ四圓ダケ増稅ヲスルト云フノデアルカラ、增稅ノ目標ガ何處ニアルカト云フコトヲ、先ツ

カ、百圓費用ガ要ルト云フノニ、僅ニ四圓ダケ増稅ヲスルト云フノデアルカラ、增稅ノ目標ガ何處ニアルカト云フコトヲ、先ツ

カ、百圓費用ガ要ルト云フノニ、僅ニ四圓ダケ増稅ヲスルト云フノデアルカラ、增稅ノ目標ガ何處ニアルカト云フコトヲ、先ツ

カ、百圓費用ガ要ルト云フノニ、僅ニ四圓ダケ増稅ヲスルト云フノデアルカラ、增稅ノ目標ガ何處ニアルカト云フコトヲ、先ツ

カ、百圓費用ガ要ルト云フノニ、僅ニ四圓ダケ増稅ヲスルト云フノデアルカラ、增稅ノ目標ガ何處ニアルカト云フコトヲ、先ツ

カ、百圓費用ガ要ルト云フノニ、僅ニ四圓ダケ増稅ヲスルト云フノデアルカラ、增稅ノ目標ガ何處ニアルカト云フコトヲ、先ツ

カ、百圓費用ガ要ルト云フノニ、僅ニ四圓ダケ増稅ヲスルト云フノデアルカラ、增稅ノ目標ガ何處ニアルカト云フコトヲ、先ツ

カ、百圓費用ガ要ルト云フノニ、僅ニ四圓ダケ増稅ヲスルト云フノデアルカラ、增稅ノ目標ガ何處ニアルカト云フコトヲ、先ツ

スルノデアルケレドモ、二億圓ニ止メタノ
デアル、政府ガ斯ウ云フ見解ヲ持ッテ居ル
ノカドウカ、此點ヲ確メテ見タイト思フノ
デアリマス

次ニ増稅ノ目標トシテ確メテ見タイコト
ヘ、消費ノ統制ヲ目論ンデ居ルノデアルカ
ドウカ、增稅ヲスルコトニ依ヅテ國民ニ消
費節約ヲ強制セントスルノデアルカドウ
カ、此點ヲ確メテ見タイト思フノデアリマ
ス

次ニ私ハ細カイ問題ニ付テ、二三點政府ノ意向ヲ確メテ見タイト思フノデアリマス、今回ノ増税案が出マスト、新聞デ一番ドノ方面デ増税ヲ歓迎シタカト云ヘバ、先刻森田君ヤ又紫安君カラ言ハレタ如クニ、金融界ニ於テ歓迎ヲシテ居ルノデアリマス、金融界デ歓迎ヲスルト云フコトハ、金融資本ニ對スル増税ノ割合ガ少ナカッタト云フコトヲ、意味スルモノデアルト思フノデアリマス、ソレニ對シテ只今大藏大臣ハ、社債ノ發行ガ出來ナイカラ已ムヲ得ズ金融資本ニ輕クナツクノデアル、是ハ生産力擴充ノ資本ノ融通ニモ關係スルモノデ、已ムヲ得ナイ處置デアルト答辯セラレテ居ルノデアリマス、併ナガラ私思フニ、日本銀行カラ興業銀行へ融通致シテ居ル所ノ貸付ノ日歩ヲ少し下ゲタナラバ、社債ニ課税スルコトガ出來ルノデハナイカト思フノデアリマス(拍手)日本銀行カラ興業銀行ヘノ貸付ノ日歩ハ、此席上ニ於テ私ガ發表スルコトハ差控ヘテ置キマスルケレドモ、稍高イ感ガアルノデアリマス、故ニ日銀カラ興銀ニ融通スル所ノ資金ノ利子ヲ下ゲタナラバ、社債ニ課税スルコトハ易々タルモノデアラウト思フノデアリマス、然ラバ日本銀行ハ

ドウシテ立チ行クカト云ヘバ、御承知ノ通り
日本銀行ハ、兌換券ノ發行權ト云フ貨幣ヲ
新造スル所ノ權能ヲ持ツテ居ル銀行デアッ
テ、サウシテ而モ一割配當致シテ居ルノデ
アルカラ、此高率配當ヲ少シ減少スルナラ
バ、興銀ニ對スル融資ノ利下ハ易々タルモ
ノデアラウト思フノデアリマスルガ、此點
ニ對シテ大藏大臣ヘ、如何ナル見解ヲ持ツ
テ居ルノデアリマスルカ
次ニ伺ツテ見タイト思ヒマスルコトハ、

土地資本ト金融資本ト産業資本ニ對スル課税ノ權衡ニ付テ、只今特ニ森田君カラ詳細レデ増稅案ガ發表セラレマスト、直グニ金融資本ト土地資本ニ對スル課税ノ比率ヲ計算致シテ見タノデアリマス、表ハ頗る細カイノデ斯様ナ席上ニ於テ皆様ニ發表シテ聽イテ戴クノハ頗ル不便デアリマスノデ、議長ノ御許ヲ得テ、是ハ速記課ニ留メテ置キタイト存ジマスガ、其大キイ數字ヲ讀上ゲテ見マスルト、土地デ所得ガ一千三百圓得ルモノ、公債デヤハリ所得ガ一千三百圓得ルモノ、社債デヤハリ一千三百圓ノ所得ヲ得ルモノ、此モノニ付テ各稅ヲ集計シテ見マスルト、土地ニ對スル課税ハ百六圓デアツテ、公債ニ對スル課税ハ七十八圓デアツテ、社債ニ對スル課税ハ百五十六圓ト云フ數字ヲ得タノデアリマス、之ヲ見ルト社債ハ可ナリ重クナルノデアリマスルケレドモ、コニデ吾々ガ更ニ検討シナケレバナラヌコトハ、一地ノ所得ハ御承知ノ通リニ綜合課稅ノ累進率ノ所得稅ガ課カル外ニ、地方ニ住ンデ居リマスル爲ニ、高イ戶數割ガ

課カルノデアリマス、之ニ假ニ百圓ノ戸數割ガ課カルトスルナラバ、此土地ニ依ル一千三百圓ノ収益者ノ稅金ハ二百六圓デアッテ、一番高クナルノデアリマス、假ニ是ガ五十圓ノ戸數割ガ課カルト見マシテモ社債ト變ラナイ、所ガ御承知ノ通りニ土地カラ生ズル所得ハ、只今申ス通リニ累進率ノ所得稅ガ課リマスルカラ、所得ノ金額ガ増セバ増ス程多ク幾何級數的ニ稅金ヲ納メナケレバナラヌト云フコトニナルノデアリマス、此點ニ付テ大藏省デハドウ云フ考の方ヲ持ツテ居ルノデアリマスカ、之ヲ確メテ置キタイト思ヒマス、ソレカラ産業資本ニ對スル課稅ト金融資本ニ對スル課稅ハ頗ル複雜デアッテ、私ノ如キ何等ノ調査機關ヲ持タナイ個人デハ、之ヲ數字的ニ比較スルコトハ極メテ困難デアッテ、常識デ直感デ行ツテ産業資本ニ對スル課稅ガ高イト、斯ニ云フ風ニ考ヘルニ過ギナインデアリマスガ、政府ニ於テ之ヲ比較スル數字ヲ御持チニナツテ居ルナラバ、此席上又ハ委員會ノ席上ニ於テ發表シテ貴ヒタイト思フノデアリマス、ソレヲ見ルノニハ先づ第一ニドウスレバ宜イカト云フコトヲ私ハ政府ニ注意致シテ置キタイト思ヒマス、ソレハ銀行ト信託ト保険會社ノ拂込資本金ト積立金ト利益金ト、サウシテ所得稅ヲ幾ラ納メテ居ルカト云フコトヲ、先づ數字ヲ取ラナケレバナラナイ、次ニ其他ノ産業株式會社ニ對スル同様ナ數字ヲ取ラナケレバナラナイ、其數字ヲ比較スルコトニ依ツテ、産業資本ニ對スル課稅ガ、金融資本ニ對シテ幾何程重クナツテ居ルカト云フコトガ、略想像スルコトガ出來ルデアラウト考ヘルノデアリ

次ニ政府ニ伺ツテ見タイコトハ、地方稅ノ整理問題ト交付金ノ問題デアリマスガ、是ハ既ニ紫安君及び森田君ニ依ツテ詳細ニ質問セラレテ居リマスルノデ、私ハ重複ヲ避ケテ唯一點ダケ伺ツテ見タイ、今度觀覽稅ハ地方稅ヲ國稅ニ取上ゲルコトニナルト承知致シ居ルノデアリマスガ、果シテサウデアルカ、若シ觀覽稅ノ地方稅ヲ國稅ニ取上ゲテ行クト云フノナラバ、何カソコニ地方稅ノドレゝハ國稅ニ取上ゲテ、其財源ヲ以テ地方ニ交付スルノダト云フ一つノ方針ガ立タナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、七千万圓ガ一億圓ニナリ、一億圓ガ一億五千万圓ト交付金ノ増加スルコトハ、地方民ハ固ヨリ吾々モ之ヲ歡迎スルノデアリマスケレドモ、吾々地方民ハ決シテ政府ニ對シテ徒ラニ憐ミラ乞フモノデハナイノデアリマス、故ニ政府ハ一定ノ方針ヲ立てゝ、此方針ニ依ツテ斯様ニシテ交付金ヲ出示サナケレバナラヌト考ヘルノデゴザイマスガ、觀覽稅ヲ國稅ニ引上ゲルニ付テ如何ナル方針ヲ持ツテ居ルノデアルカ、ソレヲ伺ツテ置キタイト思フノデアリマス

思ヒマス、五万圓ノ利益ヲ擧ゲテ居ル法人ハ二万圓或ハ三万圓ノ稅金ヲ取ラレル、是モノデハナイ、唯例トシテ申述べテ居ルノデアリマス、五万圓ノ利益金ヲ擧ゲル法人ガ二万圓又ハ三万圓ノ稅金ヲ取ラレル、マルデ稅金ヲ納メル爲ニ働イテ居ルヤウナ觀ヲ呈スル、所ガ十万圓ノ利益ヲ擧ゲル法人ニハ一万圓ソコヽヽノ稅金シカ課シテ居ラナイ、私ハ是ガ頗ル所謂常識ニ外レテ居ルト思フノデアリマス、所ガ大藏省ニ於テ稅法ノ立前カラ言フト、五万圓ノ法人ハ二十万圓ノ資本金デアッテ、一割五分ノ利益ヲ擧ゲテ居ルカラシテ、利益金ニ對シテ四〇%又ハ六〇%ト云フ高イ率ノ稅金ヲ課ケルノデアル、所ガ十万圓ノ利益ヲ上げテ一万圓ソコヽヽノ稅金シカ納メナイ所ノ法人ハ、百万圓ノ資本金デアッテ、其利益率タルヤ僅ニ一割デアルカラシテ、稅金ガ低イノダトカラ云フ風ニ答辯セラレルノデアリマス、是ハ一見理論ニハ間然スル所ガアリマヌ、併ナガラ更ニ之ヲ檢討シテ見ルト、常識ニ非常ニ懸離レテ居ルノデアリマス、何故常識ニ懸離レテ居ルカト云ヘバ、其二本金ヲ決定スルノハ誰ガスルノデアルカ、資本金ガ多ケレバ多イ程利益金ノ絶對ノ金額ハ變ラナイデモ、其割合ガ低クナルカラシテ稅金ガ低クナル、ソレカラ二十万圓ト云ヒ百万圓ト云フ資本金ハ誰ガ決メルノデアルカト云フ、大藏省ニ言ハスト稅務官吏ガ決定スルトスウ云フノデアル、所ガ決シテ事實ニ於テハ稅務官吏ガ決定スルモノデハナイノデアリマス、大抵大キナ會社ノ資本ハ水腫レニナッテ居ル、水腫レニナッテ居

ルト云フコトハ、資本金ガ實際ノ資本金ヨリハ多クナッテ居ル、ソレハ利益金ニ比較シテ、雲フ資本金ノ利益率ガ低クナルト云フコトラシテ、稅金ガヤハリ低クナルト云フコトヲ呈スル、所ガ十万圓ノ利益ヲ擧ゲル法人ニハ一万圓ソコヽヽノ稅金シカ課シテ居ラナイ、私ハ是ガ頗ル所謂常識ニ外レテ居ルト思フノデアリマス、所ガ大藏省ニ於テ稅法ノ立前カラ言フト、五万圓ノ法人ハ二十万圓ノ資本金デアッテ、一割五分ノ利益ヲ擧ゲテ居ルカラシテ、利益金ニ對シテ四〇%又ハ六〇%ト云フ高イ率ノ稅金ヲ課ケルノデアル、所ガ十万圓ノ利益ヲ上げテ一万圓ソコヽヽノ稅金シカ納メナイ所ノ法人ハ、現在一割ノ配當ヲ受ケテ居ルガ、水膨レヲ控リ切ルト四割ノ配當ニナルト云フノデアル、一割ト四割トデヘ、今申ス通り稅金ガ非常ニ變ツテ來ルノデアル、此點ニ對シテ政府當局ハ如何ナル見解ヲ持ツテ居ルカ、又今後如何ニ對處セントスルノデアルカ、此點ヲ伺ツテ置キタイト思フノデアリマス（拍手）

次ニ稅法ノ根本的改正ニ付テ、一言大藏大臣ニ伺ツテ置カナケレバナラヌコトハ、大藏大臣ハ稅法ノ根本的改正ヘ、時局ノ爲ニ經濟界ガ變化ニ富ムカラ、今之ヲ改正シテモ、即チ今日負擔ノ公平ヲ期すべく規定ヲ置イテモ、明日ハ其負擔ノ均衡ガ破レルカラ根本的ノ改正ハ出來ナイト言ツテ居ルノデアリマスガ、私ハ是ハ理窟ニ合ハヌト思フ、素人瞞シデアルト思ツテ居ル、物價デアルトカ、景氣デアルトカラ云フモノハ、時局ニ因ツテ變化ニ富ムモノデアル、今日アッテ明日ヲ知ルベカラズデアリマス、富ノ分布或ハ富ノ移行ハ、平時ニ比較シテハ逆モ激烈デアッテ、此點カラ考ヘテモ、稅法ヲ改正シテ

ルト云フコトハ、資本金ガ實際ノ資本金ヨリハ多クナッテ居ル、ソレハ利益金ニ比較シテ、雲フ資本金ノ利益率ガ低クナルト云フコトラシテ、稅金ガヤハリ低クナルト云フコトニナルノデアル、故ニ其二十万圓或ハ百万圓者ハ稅金ノ低クナルコトヲ希望スルカラ、皆競ウテ水膨レノ資本ニスルノデアリマス、敢テ私ハ電力會社ガ水膨レノ資本ヲ持ツテ居ルト云フコトヲ言ツテ居ルノデハナイガ、ドノ會社デモ巨大資本ノ會社ハ皆水膨レノ資本ヲ持ツテ居ルノデアル、私ハ先日或ル會社ノ株主カラ斯ウ云フ話ヲ聽イタノデアリマス、現在一割ノ配當ヲ受ケテ居ルガ、水膨レヲ控リ切ルト四割ノ配當ニナルト云フノデアル、一割ト四割トデヘ、今申ス通り稅金ガ非常ニ變ツテ來ルノデアル、此點ニ對シテ政府當局ハ如何ナル見解ヲ持ツテ居ルカ、又今後如何ニ對處セントスルノデアルカ、此點ヲ伺ツテ置キタイト思フノデアリマス、是ハ一見理論ニハ間然スル所ガアリマヌ、併ナガラ更ニ之ヲ檢討シテ見ルト、常識ニ非常ニ懸離レテ居ルノデアリマス、何故常識ニ懸離レテ居ルカト云ヘバ、其二本金ヲ決定スルノハ誰ガスルノデアルカ、資本金ガ多ケレバ多イ程利益金ノ絶對ノ金額ハ變ラナイデモ、其割合ガ低クナルカラシテ稅金ガ低クナル、ソレカラ二十万圓ト云ヒ百万圓ト云フ資本金ハ誰ガ決メルノデアルカト云フ、大藏省ニ言ハスト稅務官吏ガ決定スルトスウ云フノデアル、所ガ決シテ事實ニ於テハ稅務官吏ガ決定スルモノデハナイノデアリマス、大抵大キナ會社ノ資本ハ水腫レニナッテ居ル、水腫レニナッテ居

ルト云フコトハ、資本金ガ實際ノ資本金ヨリハ多クナッテ居ル、ソレハ利益金ニ比較シテ、雲フ資本金ノ利益率ガ低クナルト云フコトラシテ、稅金ガヤハリ低クナルト云フコトニナルノデアル、故ニ其二十万圓或ハ百万圓者ハ稅金ノ低クナルコトヲ希望スルカラ、皆競ウテ水膨レノ資本ニスルノデアリマス、敢テ私ハ電力會社ガ水膨レノ資本ヲ持ツテ居ルト云フコトヲ言ツテ居ルノデハナイガ、ドノ會社デモ巨大資本ノ會社ハ皆水膨レノ資本ヲ持ツテ居ルノデアル、私ハ先日或ル會社ノ株主カラ斯ウ云フ話ヲ聽イタノデアリマス、現在一割ノ配當ヲ受ケテ居ルガ、水膨レヲ控リ切ルト四割ノ配當ニナルト云フノデアル、一割ト四割トデヘ、今申ス通り稅金ガ非常ニ變ツテ來ルノデアル、此點ニ對シテ政府當局ハ如何ナル見解ヲ持ツテ居ルカ、又今後如何ニ對處セントスルノデアルカ、此點ヲ伺ツテ置キタイト思フノデアリマス、是ハ一見理論ニハ間然スル所ガアリマヌ、併ナガラ更ニ之ヲ檢討シテ見ルト、常識ニ非常ニ懸離レテ居ルノデアリマス、何故常識ニ懸離レテ居ルカト云ヘバ、其二本金ヲ決定スルノハ誰ガスルノデアルカ、資本金ガ多ケレバ多イ程利益金ノ絶對ノ金額ハ變ラナイデモ、其割合ガ低クナルカラシテ稅金ガ低クナル、ソレカラ二十万圓ト云ヒ百万圓ト云フ資本金ハ誰ガ決メルノデアルカト云フ、大藏省ニ言ハスト稅務官吏ガ決定スルトスウ云フノデアル、所ガ決シテ事實ニ於テハ稅務官吏ガ決定スルモノデハナイノデアリマス、大抵大キナ會社ノ資本ハ水腫レニナッテ居ル、水腫レニナッテ居

ルト云フコトハ、資本金ガ實際ノ資本金ヨリハ多クナッテ居ル、ソレハ利益金ニ比較シテ、雲フ資本金ノ利益率ガ低クナルト云フコトラシテ、稅金ガヤハリ低クナルト云フコトニナルノデアル、故ニ其二十万圓或ハ百万圓者ハ稅金ノ低クナルコトヲ希望スルカラ、皆競ウテ水膨レノ資本ニスルノデアリマス、敢テ私ハ電力會社ガ水膨レノ資本ヲ持ツテ居ルト云フコトヲ言ツテ居ルノデハナイガ、ドノ會社デモ巨大資本ノ會社ハ皆水膨レノ資本ヲ持ツテ居ルノデアル、私ハ先日或ル會社ノ株主カラ斯ウ云フ話ヲ聽イタノデアリマス、現在一割ノ配當ヲ受ケテ居ルガ、水膨レヲ控リ切レト四割ノ配當ニナルト云フノデアル、一割ト四割トデヘ、今申ス通り稅金ガ非常ニ變ツテ來ルノデアル、此點ニ對シテ政府當局ハ如何ナル見解ヲ持ツテ居ルカ、又今後如何ニ對處セントスルノデアルカ、此點ヲ伺ツテ置キタイト思フノデアリマス、是ハ一見理論ニハ間然スル所ガアリマヌ、併ナガラ更ニ之ヲ檢討シテ見ルト、常識ニ非常ニ懸離レテ居ルノデアリマス、何故常識ニ懸離レテ居ルカト云ヘバ、其二本金ヲ決定スルノハ誰ガスルノデアルカ、資本金ガ多ケレバ多イ程利益金ノ絶對ノ金額ハ變ラナイデモ、其割合ガ低クナルカラシテ稅金ガ低クナル、ソレカラ二十万圓ト云ヒ百万圓ト云フ資本金ハ誰ガ決メルノデアルカト云フ、大藏省ニ言ハスト稅務官吏ガ決定スルトスウ云フノデアル、所ガ決シテ事實ニ於テハ稅務官吏ガ決定スルモノデハナイノデアリマス、大抵大キナ會社ノ資本ハ水腫レニナッテ居ル、水腫レニナッテ居

ルト云フコトハ、資本金ガ實際ノ資本金ヨリハ多クナッテ居ル、ソレハ利益金ニ比較シテ、雲フ資本金ノ利益率ガ低クナルト云フコトラシテ、稅金ガヤハリ低クナルト云フコトニナルノデアル、故ニ其二十万圓或ハ百万圓者ハ稅金ノ低クナルコトヲ希望スルカラ、皆競ウテ水膨レノ資本ニスルノデアリマス、敢テ私ハ電力會社ガ水膨レノ資本ヲ持ツテ居ルト云フコトヲ言ツテ居ルノデハナイガ、ドノ會社デモ巨大資本ノ會社ハ皆水膨レノ資本ヲ持ツテ居ルノデアル、私ハ先日或ル會社ノ株主カラ斯ウ云フ話ヲ聽イタノデアリマス、現在一割ノ配當ヲ受ケテ居ルガ、水膨レヲ控リ切レト四割ノ配當ニナルト云フノデアル、一割ト四割トデヘ、今申ス通り稅金ガ非常ニ變ツテ來ルノデアル、此點ニ對シテ政府當局ハ如何ナル見解ヲ持ツテ居ルカ、又今後如何ニ對處セントスルノデアルカ、此點ヲ伺ツテ置キタイト思フノデアリマス、是ハ一見理論ニハ間然スル所ガアリマヌ、併ナガラ更ニ之ヲ檢討シテ見ルト、常識ニ非常ニ懸離レテ居ルノデアリマス、何故常識ニ懸離レテ居ルカト云ヘバ、其二本金ヲ決定スルノハ誰ガスルノデアルカ、資本金ガ多ケレバ多イ程利益金ノ絶對ノ金額ハ變ラナイデモ、其割合ガ低クナルカラシテ稅金ガ低クナル、ソレカラ二十万圓ト云ヒ百万圓ト云フ資本金ハ誰ガ決メルノデアルカト云フ、大藏省ニ言ハスト稅務官吏ガ決定スルトスウ云フノデアル、所ガ決シテ事實ニ於テハ稅務官吏ガ決定スルモノデハナイノデアリマス、大抵大キナ會社ノ資本ハ水腫レニナッテ居ル、水腫レニナッテ居

テ、軍需工業調査委員會ヲ設ケテ、稅制ニ
對スル調査研究ヲシタ際ニモ、戰時利得ハ
其九〇%マデ取ツテ宜イト云フヤウナ報告
書ヲ出シテ居ルヤウニ記憶致シテ居ルノデ
アリマス、私此點ニ付テ敢テ異論ヲ申述ブ
ル者デハナイノデアリマスケレドモ、一體
重工業デアルトカ、化學工業デアルトカ、
或ハ軍器ヲ造ルト云フヤウナ直接ノ軍需工
業ニ於テハ、其設備ハ近モ十五年モ二十年
モ使ヘルモノデハナイノデアリマシテ、五年
カ八年デ設備ハ「ゼロ」ニナルノデアル、
左様ナ生命ノ短イ設備ヲ以テシテ、今日儲
カルカラト云フノデ皆取ツテ行カレタ場合
ニハ、平和時代ニナツタ時、或ハ平和時代ニ
ナラナクテモ、五年カ八年ノ後ニハ多大ノ
利益ハ舉ラナイノミナラズ、其設備ハ皆損
ノ勘定ニシナケレバナラスト云フコトニナ
ルノデアルガ、資本銷却ノ點ニ付テ大藏省
ハ如何ナル取扱ヲセントスルノデアルカ、
之ヲ聽イテ置キタイト思フノデアリマス
ソレカラ最後ニ伺ツテ見タイト思ヒマス
ノハ、只今森田君カラモ一言セラレタヤウ
ニ、現在ノ日本ノ稅法ハ逆モ複雜多岐デア
リマス、恐ラクハ稅務官吏ト雖モ具體的ノ
事實ニ對シテ、直チニ稅法ヲ適用スルコト
ハ出來ナイト私ハ思フノデアリマス、政府
當局デモ稅法ノ分ツテ居ル方ハ、名指シラシ
テハ失禮デアリマスガ、其處ニ居ラレル國
債ノ利子ト社債ノ利子ト、ドチラニドレダ
稅課長ト主稅局長ト石渡次官位ダラウト思
フ、大藏大臣モ恐ラク分ルマイト思フ、極
メテ簡單ナル設例ヲ申上ゲマスナラバ、公
債ノ利子ト社債ノ利子ト、ドチラニドレダ
ケ重ク稅金ガ課カルカト云フコトヲ計算シ
テ見ヨウトシテモ、是ハ御承知ノ通り比例
稅デアルカラ、極メテ簡單ナ徵稅事項デア

リマスケレドモ、ソレヲ見ヨウト思フナラ
バ、第一ニ所得稅法、資本利子稅法、臨時相
度此處ニ提案セラレテ居ル支那事變特別稅
法ヲ持ツテ來テ、算盤ヲ彈イテ見ナケレバ分
ラヌ、ソレヲ持ツテ來テ分ルノナラバ宜イ
ガ、尙ホ算盤ヲ彈カナケレバ、社債ノ利子
ニ對シテ幾ラ稅金ガ課リ、公債ノ利子ニ對
シテドレダケノ稅金ガ課ルト云フコトハ、
分ラナインノデアル、況シテヤ個人ノ營業主
ヤ法人ガ幾ラ稅金ヲ納メナケレバナラヌカ
ト云フコトニ至ツテハ、專門ノ稅法研究者ヲ
雇ハナケレバ分ラナインノデアリマス、私ハ
議會ヲ有シテ居ル文明國デ、コンナ複雜難
解ナ稅法ヲ持ツテ居ル國ハ恐ラクナインデア
ラウト思フノデアリマス(拍手)若シ斯様ナ稅
法ニ依ツテ發セラレタ徵稅令書ガ民間ニ於
ケル債權債務ノ仕切書デアッタシタナラ
バ、逆モ爭ガ頻發シテ一年經ツテモ二年經ツ
テモ金ハ一錢モ入ツテ來ナイト私ハ思フノ
デアリマス、ソレデ政府ノ方ニ於テ此複
雜ナル所ノ稅法ヲ整理スルノ用意ガアルカ
ドウカ、今期議會中ニ整理シテ之ヲ提案ス
ルノ用意ガアルカナカニカ、若シ其用意ガナ
イトスルナラバ、國民ヲシテ一目瞭然、自
己ノ納ムル稅金ガ幾何ニナルカラ計算スル
ニ便宜ナル所ノ稅率一覽表ヲ作ツテ、此議會
ニ於テ、增稅ヲ行フコトハ必要デアルト考
ヘテ居ルノデアリマス、之ニ依ツテ惡性「イ
ンフレーション」ヲ防ギ得ルカト云フ御話
デアリマスガ、御承知ノ如ク經濟界ノ問題
ハ、單ニ此一手二手デ行キ得ルト云フ譯デ
ハアリマセヌノデ、度々申上ゲマシタル如
ク、國際收支ノ維持、物資ノ需給調整、生
產力ノ擴充、色々ノ方面殊ニ貯蓄ノ獎勵、
全面ニ合理的ノ消費節約ヲ必要トスルノデ
アリマスガ、是等ノ政策ト相俟チマシテ、
增稅モ惡性「インフレーション」防止ノ一助
ニナルモノト考ヘテ居リマス、尙ホ產業ノ

（國務大臣賀屋興宣君登壇）
○國務大臣（賀屋興宣君）御答申上ゲマス、
此增稅額ノ目標デアリマスガ、是ハ國民ノ
此際ニ戰費ヲ增稅ニ依ツテ支辨スペク努ム
ベキモノデアリマスガ、產業ノ振興ト云フ
コトモ考ヘナケレバナリマセヌ、又國民生
活ニ對シテ過重ナル壓迫ト云フコトモ考ヘ
ナケレバナリマセヌ、其二點ヲ考慮シマシ
テ、稅率ヲ盛リマシタ結果、アノ金額ニナ
リマンタ次第デアリマス、戰後下ノ位經常
財源ヲ増スベキ必要ガアルカ、御示シノ如
ク事變公債ノ利子デアリマスルトカ、其他
恩給色々此事變ニ依リマシテ、經常財源ノ
增加スルモノガアラウト考ヘルノデアリマ
ス、ソレハ恐ラク事變ガ長期ニ至リマスレ
バ、只今ノ增稅ノ程度ヨリ尙ホ多キモノモ
アランカト考ヘルノデアリマスガ、是ハ未
ダ前途ヲ豫測スルコトガ出來ナイノデアリ
マス、サウ云フ點カラ考ヘマシテ、此增稅
ノ金額ヲ以テ直チニ公債利子ノ支辨ニ充テ
ルトハ申上ゲ兼ネマスケレドモ、將來經常
的增稅ヲ致シマスルニ付キマシテモ、事變
中ノ如キ、多少ノ跛行性ハアリマシテモ、事變
ニ於テ、增稅ヲ行フコトハ必要デアルト考
ヘテ居ルノデアリマス、之ニ依ツテ惡性「イ
ンフレーション」ヲ防ギ得ルカト云フ御話
デアリマスガ、御承知ノ如ク經濟界ノ問題
ハ、單ニ此一手二手デ行キ得ルト云フ譯デ
ニ寧ロ收益モ增加シテ居ルノデアリマシテ、
此金融ガ產業資本ニナリマス關係ヲ考ヘレ
バ、金融資本ノ方面ハ低金利ニ依ツテ非常ナル
收入減ヲ起シテ居リマス、產業方面ハ反對
ニ寧ロ收益モ增加シテ居ルノデアリマシテ、
此金融ガ產業資本ニナリマス關係ヲ考ヘレ
バ、金融資本ノ方面集積蓄積ヲ私共ハ心掛ケナ
ケレバナラヌ次第デアリマス、日銀ノ興業銀行
ニ低利ノ國債並ニ產業資金トナリマスル社
債其他ノ蓄積ニ關シマシテ、稅率ヲ増加致
サナカツタ次第デアリマス、日銀ノ興業銀行
ニ對スル貸付利率ヲ安クスルト云フ點ハ、
場合ニ依ツテハ必要カト考ヘマスルガ、日本
銀行ガ產業資金ヲ出シマスルコトハ一種ノ
繫ギデアリ、例外デアリマス、產業資金ハ
一方固定設備ヲ要スルモノデアリマスカラ、
必ズヤ國民ノ貯蓄、蓄積ニ俟ツラ本體ト

致スノデアリマス、隨ヒマシテ國民ノ蓄積
貯蓄ヲ獎勵致ス意味ニ於キマシテモ、只今
ノ狀況ニ於キマシテハ、是レ以上課稅ヲ増
シマシテ、事實上ノ低金利ヲ招來スルコト
ハ適當デナイノデアリマス、我國ノ生産力
ニ超過セントスル大ナル事業ヲ今致シテ居
ル際デアリマスカラ、資本ノ蓄積ノ極メテ
樂デアリマス時代、金利ノ自然的ニ低下ス
ル時代トハ、餘程此趣ヲ變ヘテ參ラナケレ
バナリマセヌ、是等ノ點モ只今ハ恆久的稅
制整理ヲ致スノニ適當シナイ時期デアルノ
デアリマス

尙ホ土地、社債、公債ニ關スル色々御比
較モアリマシタガ、只今ノ公債、社債ニ對
シマスル考ハ、右様ノ下ニ出發致シテ居ル
ノデアリマス、昨年ニ於ケル一種ノ新資本
投資ノ跛行性、株式ノ拂込ノミニ偏リマシ
テ、社債ノ發行ノ出來マセヌデシタ時代ヲ
モウ少し常態ニ引返ス必要ハアルト思^ツテ
居ルノデアリマス

尙ホ觀覽稅ニ付キマシテ、地方ニ於テハ
減稅ヲスルカドウカト云フ御話デアリマス
ガ、此觀覽稅ヲ國稅デ取リマスル結果、一
部ノ觀覽興業物ニ對シマスル地方稅ノ輕減
ヲ必要トスル分ガアリマス、其地方團體ノ
收入ノ減少ニ對シマシテハ、國庫ヨリ交付
金ヲ支給スル積リデ居リマス

利益ノ少イ法人ニ却テ稅ガ高ク、利益ノ
多イ方面ニハ稅ガ少イト云フ御話ハ、矢野
君御説明ノ如ク絕對金額ハ少クテモ、利益
率ノ多イ方面ニハ御話ノヤウナ制度ニ相
成^ツテ居リマスルガ、是ハ已ムヲ得ナイ點デ
アリマシテ、只今ノ資本金ハ拂込資本ノミ
ナラズ、積立金等、實際ノ資本ト云フコト
ヲ見テ居リマス、又水膨レ云々ノ御話ガア

リマシタガ、斯ルモノモ多少アリマセウ、併シ其際にハ寧ロ努メテ利益ヲ不健全ニモ多ク出スヤウナ傾向ガアル位デアリマス、此邊カラ非常ナル不公平ハナイト思ヒマス、但シ此小法人ニ付キマシテハ、資本ノ力ヨリ企業ニ當リマス人約要素ガ相當多イトイ云フ説ハ、或ル程度ニ於テ首肯スペキモノト認メマスノデ、今回ニ於キマシテモ小法人ニ對スル事變利得ハ其率ヲ輕減致シテアル次第デアリマス

尙ホ此稅制ノ改正ハ此際モ出來ルデハナイカト云フ御話デアリマスガ、例ヘバ都市ト農村ニ致シマシテ、都市方面ニ厚クスルニ致シマシテモ、只今ハ都市ノ一部ハ非常ニ軍需工業等ノ爲ニ活況ヲ呈スルモノモアリマスルガ、輸出工業等ノ關係上、收益ノ減ルモノモアリマス、サウ云フ風ニ常態ヨリ異ツタル有様デ出テ居リマスルノデ、且ツはガ事變ガドノ位續キマスルカ、又其發展ノ程度如何デハ、利得及ビ損失ノ狀態ガ、必シモ豫測シ得ナイノデアリマスカラ、此際ニ於テ恒久的ノ稅制整理ヲ致シマスルコトハ、是ハドウモ適當デナイト考ヘテ居ルノデアリマス、勤勞所得トハ如何ナル意味デアルカ、是ハ肉體、精神共ニ入ツテ居リマスル次第デアリマシテ、今回ノ増稅ガ精神的方面ニアリト申シマスルノモ、是ハ肉體労働ヲ致シテ所得ヲ得ル方面モ、精神的労働ニ依ツテ所得ヲ得ル方面モ、資產所得ニ付テハ、其命脈ノ短イモノハナイカト云フ御説デアリマスガ、其銷却率ニ付キマシテハ同一デアルト考ヘテ居ルノデアリマス、尙ホ戰時利得ニ付キマシテハ、軍需工業等

思フノデアリマス、税法ノ複雜ナコトニ付キマシテハ、御示シノ趣ニ似タ所ガアリマシテ、其邊ハ私モ甚ダ御氣ノ毒ニ存ジテ居ルノデアリマス、御話ノヤウニ成ベク是ガ容易ク分リマスヤウナ補助手段ヲ講ジタイト思ヒマス、一覽表ヲ作ルト申シマスルカ、左様ナ邊ニヘ歴メテ力ヲ盡シテ、何等カ便宜ノ方法ヲ講ジタイト考ヘテ居リマス（拍手）

○副議長（金光庸夫君） 鶴惣市君
（鶴惣市君登壇）

○鶴惣市君 私共ハ昨年ノ夏ノ特別議會ニ於キマシテ、アノ結城増稅ヲ斷行シ、更ニ九月ノ臨時議會ニ於テモ、重ネテ賀屋增稅ヲ通過セシメテ參ッタノデアリマス、而シテ今又四箇月ヲ出デザル今日、更ニ第三次ノ增稅ニ遭遇致シタノデアリマス、斯ノ如ク頻々ト其都度々々ノ必要ニ應ジマシテ、増稅ヲ敢行セラル、ト云フコトニナリマスレバ、或ハ來ルベキ機會ニ於テモ更ニ第四次、第五次ノ增稅ヲヤラル、ノデハナイカト云フ懸念ノ下ニ、國民ト共ニ心配シテ居ルノデアリマス、固ヨリ今日ノ時局ハ、之ヲ歴史的ニ見マシテモ、皇國未會有ノ非常時デアルコト無論デアリマスガ故ニ、私ハ敢て今回ノ増稅ニ異議ヲ唱ヘントスル者デハ断ジテアリマセヌ、寧ロ銃後ノ國民的義務ノ上ニ於テ、當然ノ處置デアルトサヘ思ッテ居ルノデアリマス、併ナガラ本增稅案ノ如ク、其都度々々ノ必要ニ應ジマシテ、何等ノ體系モナク、何等ノ基礎モナク、卑俗ナ言葉デハアリマスルガ、出タトコ勝負のナ無計畫極マル增稅案デヘ、第一國民ガ不安デナラナイコトヲ御警告申上ゲタイノデアリマス（拍手）殊ニ本次事變ハ長期抵抗トナッタ

今日デアリマス、今議會ニ於ケル内閣ノ御所信ニ依リマシテモ、帝國ノ對支行動ハ長期戰タルコト既ニ明白デアリマス、隨テ今次事變ハ相當長期ニ瓦ルモノト覺悟シナケレバナリマセヌノデアリマスガ、果シテ此增稅案ヲ以テ、此長期戰化シタル新事態ヲ、澁滯ナク處辦シ得ルヤ否ヤト云フコトニ付テハ、私ハ先づ政府當局ノ御所信ヲ承リケイノデアリマス

顧ミマスレバ事變勃發以來、最近ニ至ル政府當局者ノ事變對策ハ、大體ニ於テ之ヲ極ク短期ノモノト假定シテノ應急策ニアッタト思フノデアリマス、是ハ去ル第七十二議會ニ於ケル政府當局者ノ御答辯ニ依リマシテモ明カナ所デアリマス、然ルニ今ヤ事變ハ其假定ヲ裏切ツテ、明確ニ長期戰化シタ今日デアリマス、即チ此新事態ニ對シマシテ、政府ハ當然ニ財政政策モ、稅制ノ問題モ、之ニ即應スペキ所ノ根本的ナ對策ヲ樹立シナケレバナラナイ筈デアルニ拘ラズ、本增稅案ニハ遺憾ナガラ何等一片ノ改善ノ痕跡スラ發見ガ出來ナイノデアリマス、別シテ現行稅制ハ其一大缺陷アルニ於テ、既ニ改革ノ急務ヲ痛感セラレ、更ニ第七十一議會ニ於テハ、時ノ結城藏相自ラ明確ニ、近キ將來ニ於テ稅制改革ヲ斷行すべき用意ガアルト約束サレテ居ルノデアリマス、然ルニモ拘ラズ本案ニハ何等改善ノ痕跡サヘナキノミカ、一大缺陷ヲ密封シタ儘、屋上臺ヲ重ヌルガ如キ稅制計畫ヲ樹立セラレテ居ルト云フコトハ、何ト致シマシテモ私共ノ諒解ニ苦シム所デアリマス(拍手)無論本增稅案ガ臨時のモノデアルコトヘ、特別法ノ名ノアルコトニ依ツテモ明白デアリマス、又政府ノ御説明ニ依リマシテ

モ、本増税ノ實施ハ、大體事變終了後一箇年下限定セラレテ居ルノデアリマスガ、併ナガラ實際的ニ見テモ、長期戰化シタル事變ノ性質上、何時事變ガ終了シタカト云フガ如キ、ハツキリシタ時期ヲ劃スルト云フコトハ、彼ノ満洲事變ガズルベッタリ式デ終了シタル同様ニ、極メテ困難デアラウト思フノデアリマス、況ヤ豫算總會ニ於ケル質疑應答ノ内容カラ推論致シマシテモ、戰後ト雖モ尙ホ相當ノ駐支軍隊ヲ必要トサレル今日ニ於テ、本増税ノ實施ガ相當恒久性ヲ帶ビテ居ルト云フコトハ、實ニ避ケ難イ一種ノ宿命デアルト言ツテモ宜イノデアリマス、即チ私ノ見ル所ニ依リマスレバ、斯ノ如ク長期戰化シタル今日デアル以上、根本的、基本的財政上ノ對策ヲ樹立シ、而シテ其完全ナル財政計畫ノ基礎ノ上ニコソ、初メテ本増税ノ如キモノハ盛ラナケレバナラナイト信ズルノデアリマス、或ハ此質問ニ對シマシテ、政府ハ此新事態ガ不測ノ間ニ發生シタガ爲ニ、其根本的財政上ノ對策ヲ樹立スベキ餘裕ガナカッタト言ヘル、デアリマセウカ、實情ハ或ハ其通リデアルカモ知レマセヌガ、然ラバ本增稅案ハ萬已ムヲ得ヌモノトシテ、來ルベキ七十四議會ニ於キマシテ、改メテ財政上ノ根本對策ヲ樹立シ、所謂新事態ニ副フ所燐寸其他ノ物品、特別稅、通行稅、入場稅付テデアリマス、今回ノ增稅ハ酒、砂糖、ヲ合セマシテ九千三百万圓、外ニ煙草ノ値ノ稅制改革ヲ斷行スベキ御用意ガアルカ否ヤト云フコトヲ、此場合明確ニ御答辯ヲ戴キタインデアリマス

ノ所謂大衆課稅ヲ致シテ居ルノデアリマス、而シテ又第三種所得稅ニ於テモ、從來ノ免稅點千二百圓ヲ一躍千圓トシ、名實共ニ國民大衆ノ非常時の分擔ヲ、相當當烈ニ強化サレテアルノデアリマス、固ヨリ日本國民デアル以上ハ、此皇國未會有ノ大國難ニ處シテハ、是位ナ分擔ハ敢テ意トスルニ足ラヌノデアル、國家ノ爲ナラバ、場合ニ依ッテハ全財產ヲ擲ゾテデモ敢テ悔マナイノデアリマス、現ニ支那大陸ノ新戰場ニハ、勇敢果敢ナル大衆ノ御子弟ガ、身命ヲ皇國ノ爲ニ犠牲ニ供シ、尙且ツ忠烈日本ノ名譽ノ爲ニ萬歳々々ヲ叫ベレテ居ルヤウナ有様デアリマス、併ナガラ同ジ陛下ノ赤子トシテ、一視御同仁ノ御仁慈ニ遍ネカルベキ國民ノ中ニ、階級ヲ區分シテ偏重スルガ如キ政治ヲ行フコトハ、斷ジテ許サナイ所デアリマス、即チ本案ノ内容ニ依リマスレバ、最モ負擔力アル金融資本ニ對シテハ、殆ド增稅ノ痕跡ナキニ拘ラズ、獨リ大衆資本ニ對シテハ、過重ノ負擔ヲ課セラントスル傾向ガアルノデアリマス、具體的ニ申シマスレバ、金融資本即チ公社債竝ニ預金利子ナドノ第二種所得ニ對シマシテハ、全然事件費ノ負擔ヲ課ケナイ程度ノ增稅デアルニ拘ラズ、第一種、第三種ノ所得、所謂產業所得乃至勤勞所得ニ對シマシテハ、實ニ大膽ナル増徵率ヲ賦課セントシツ、アルノデアリマス、固ヨリ原案ニ依リマスレバ、第二種ト雖モ、一應ハ一律ニ割五分ノ増徵ヲ實施シテ居ルカノ如ク見エマスルガ、之ヲ仔細ニ検討致シマスレバ、利率年四分ヲ超エザル國債ニ付テハ増徵ヲ行ハズト規定シ、更ニ銀行預金利子、貸付信託ノ利益率ニ付テハ、年四分五厘ヲ超エザル地方債及び社債利子ニ

限り、地方債利子ノ百分ノ六・五、其他百分ノ八ト制限シ、此苛烈ナル増徴ノ及バザラントニ努メテ居ラル、ヤウナ感ジガ致シマス、現在ニ於ケル我ガ起債利率ハ國債三分五厘、社債四分三厘デアリマスガ故ニ、此規定ニ依リマスルト、今回此二割五分ノ増徴ヲ受ケル者ハ、過去ノ所謂高利債ニ止マリ、其總額モ極メテ微細ナモノデゴザイマス、隨テ國債ハ自然從來ノ百分ノ二ノ儘デアリ、公社債ト預金利子所得ハ、大體ニ於テ從來ノ百分ノ六・五、百分ノ八程度デアリマスカラ、現在ノ増稅、結城增稅ニ依ルモノトノ比較ハ、僅ニ百分ノ〇・五ニ過ギナインノデアリマス、斯ノ如ク一方ニハ百分ノ二十五ノ増徴ヲ課スルニ寸毫モ假借ナキ政府當局ガ、一方ニハ最モ負擔能力アル金融資本ニ對シテハ、僅ニ百分ノ〇・五ヲ以テ見逃サントサル、ガ如キハ、果シテ之ヲ以テ政府ノ所謂負擔ノ均衡ヲ保チ得ラレタト言ヒ得ラレルデアリマセウカ、實ニ舉國一致ヲ棄スモノハ犠牲ノ不均衡——ニアリト云フコトヲ知ラナケレバナラヌノデアリマス、是ハ數字ガ實證スル現實ノ問題デアリマスガ、之ニ對スル賀屋大藏大臣ノ責任アル御答辯ヲ私ハ承ッテ見タイト思ヒマス

ノ部門ニ瓦ツテモ、此傾向ヘ著シク顯著デア
リマス、卑近ナ譬テハアルカ、假ニ營業收
益税ノ一例ヲ捉ヘテ見マシテモ、第一種タ
ル法人收益ニ對シテハ、使用物ノ減價銷却
ヲ認メ、之ヲ控除スルノ恩典ヲ與ヘテ居ル
ニ拘ラズ、零細ナル第三種所得收益者ニ對
シテハ、其恩典サヘ與ヘテ居ナイノデアル、
又同ジ個人收益ニ於テモ、使用人ヲ雇傭
シ得ル階級ニハ、使用人ノ給料、食費其他
ヲ控除スルニ拘ラズ、使用人ヲ雇傭シ得ザ
ル、氣ノ毒ナル階級ニハ、如何ニ使用人ニ
準ズベキ家庭人ノ協力アルモ、何等之ヲ控
除スベキ恩典サヘ與ヘテ居ナイノデアル
(ヒヤー)是ハ單ナル營業收益稅ノ一例
ニ付テデアリマスガ、此弊風ハ獨リ是ノミ
ニ止マリマセヌ、有ユル現行法ノ部門ニ瓦ツ
テ浸透ラ致シテ居ルノデアリマス、國民ノ
不平ハ負擔ノ過重ノミニ依ツテ起ルモノデハ
斷ジテアリマセヌ、殊ニ今日ノ時局ニ於テ
尙更然リデアリマス、國家が必要トスレバ、
國民ハ全財產ハオロカ、身命ヲ擲ツテデモ敢
テ悔ナイノデアリマス、併ナガラ階級ヲ區
分シテ偏重スルガ始キ政治下ニアッテハ、假
令ソレガ如何ニ零細ナコトデアッテモ、許容
スル譯ニハ斷ジテ參ラナインデアリマス、
共ニ歎キ、共ニ苦勞シ、共ニ喜ブ、此ノ政
治機構ニアッテ、初メテ國家總動員ノ國民的
結合ハ求メラレルノデアリマシテ、彼ノ極
寒零下ノ將兵一同ガ、一本ノ煙草モ分ケ
喫ムト云フ、アノ麗ハシイ家庭的相互扶助
ノ精神コソ、實ニ非常時國民ノ心構ヘデナ
ケレバナラヌト私ハ信ズルノデアリマス、
然ルニモ拘リマセズ、政府ノ施設ヘ動モス
レバ、此眞精神ヲ沒却シテ、富裕階級偏重
ニ傾キ、本增稅案ノ如キ驚クベキ不公平ヲ

暴露スルニ至^タト云フコトハ、特ニ時節柄私ノ最モ遺憾ニ堪ヘナイ所デアリマス(拍手)。凡ソ租稅ノ要諦ハ上ニ厚ク下ニ薄シデナケレバナリマセヌ、持テル者ヨリ多ク取ツテ、持タザル者ヨリ少ク取ル、是ハ原則デナケレバナリマセヌ、今回ノ增稅案ニ致シマシテモ、金融資本擁護ノ立前ヲ一擲致シテ、一律ニ增稅ヲ斷行致シマスレバ、本增稅案額ニ依ル三億圓程度ノ財源ハ、何モ零細國民ニ迄負擔ヲ分タズトモ、優ニ捻出ガ出來ルト私ハ思フノデアリマス、殊ニ此次事變ニ對スル世界諸國ノ言論界ハ、日本ノ經濟力ヲ侮蔑シテ、如何ニモ長期戰ニ耐ヘザルモノ如ク吹聴シ、又相手國タル国民政府其モノヲシテ斯ク信ゼシメテ居ルト云フコトハ、遺憾ナガラ現實ノ問題デアリマス、固ヨリ此謬見ガ如何ニ滑稽極マルモノデアルカト云フコトハ、現實ニ於ケル日本ノ經濟的實力ガ雄辯ニ立證スル所デアルガ、サリトテ本增稅案ノ如ク、恰モ零細國民ノ犠牲ヲ迄動員シナケレバ、非常時財源ノ捻出ガ困難デアルト云フガ如キ政策ヲ執ラレルト云フコトハ、日本ノ真ノ經濟的實力ヲ世界ニ宣示スル上ニ於テモ、サウスルコトガ極メテ堅要

之ヲ今一度要約致シマスレバ、第一、政府ノ事變新事態ニ對スル根本的財政計畫ノ樹立デアリマス、第二、稅制改革ハ既ニ第七十一議會當初カラノ要望デアルガ、今日尙ホ何等ノ爲スナキハ如何ナル理由ニ依ルモノカ、若シ計畫アリトスレバ、來ルベキ議會ニ斷行スル意思ガアルヤ否ヤ、第三、本增稅案ハ其本質ニ付テ、金融資本偏護ノ不公平ヲ暴露シテ居ルガ、果シテ之ヲ以テアル、而モ其初步トモ言フベキ今日、今カラスノ如キ零細大衆ノ犠牲マデモ動員スルガ如キコトデハ、外人ダケデハアリマセヌ、第一吾々自體、政府ノ財政計畫ヲ危ミタクナアル、而モ其初步トモ言フベキ今日、今カラスノ如キ零細大衆ノ犠牲マデモ動員スルニ逼迫シテ居ルト云フコトデアリマセヌ、モ角モ、我ガ偉大ナル金融資本ハ尙ホ綽々トシテ不退轉ノ態勢ヲ保持致シテ居ルノデアル、大藏大臣ハ世界ノ此逆宣傳ニ對シテハ、聲

ヲ嘎ラシロヲ酸^アバクシテ頻ニ其誤謬ヲ啓蒙シ、長期抵抗恐ル、ニ足ラズト大見得ヲ切^カテ居ラレルヤウデアルガ、果シテ然ラバ本增稅ニ於テモ、斯ノ如キ不體裁ナル零細國民ノ犠牲ヲ一擲シ、日本ノ財力ハマダ^カ是等ノ犠牲ニ俟タズトモ、一部國民ノ負擔タケデ十二分ニ捻出ガ出來ルト云フコトヲ、實踐ニ於テ世界ニ宣示サレルト云フコトガ、日本ノ眞ノ實力ヲ顯現スル上ニ於テ百ノ效果ガアラウト思フノデアル、之ニ對スル大藏大臣ノ所信ヲ承リタイノデアリマス、又今日ノ日本ノ實力カラ言ツテモ、長期戰ニ對スル大衆國民ノ餘力ヲ將來ニ保持スル上ニ於テモ、サウスルコトガ極メテ堅要

デアルト私ハ思フノデゴザイマス、以上各項目ニ亘^ツテ私ハ大藏大臣ノ御答辯ヲ要求致シタイノデアリマス、之ヲ今一度要約致シマス、次ニ稅制整理ヲ何故ヤラナイカト云フ仰セデアリマスガ、稅制整理ヲヤリマセヌ理由ハ、話デアリマスルガ、是ハ只今マデノ御質問ニ度々御答申上ゲマシタ通リノ事情デアリマス、來議會ニ必ズ出スカト云フ仰セデアリマスガ、稅制整理ヲヤリマセヌ理由ハ、只今申述ベマシタヤウナ所ニアルノデアリマスルカラ、事變ノ前途未ダ豫測出來マセヌ際ニ、來議會ニハ必ズヤリマスト云フコトハ、是ハ只今ノ所申上ゲ兼ネルノデアリマス、併ナガラ出來ルダケ之ヲ早クヤル、斯ウ云フ意思ハ十分ニ持ツテ居ルノデアリマス

次ニ金融資本ニ對シテ云々ノ御話デアリマス、是モ度々申上ゲタノデアリマスルガ、第一ニ御考ヲ願ヒマスルコトハ、郵便貯金コトハ、其貯蓄ノ獎勵ヲシテ產業資金茲ニ公債ノ消化ニ向ハセルノミナラズ、經濟界ニ業資金ノ充實、公債ノ消化ガ出來マセヌ時ニハ、其處ニハ此事變ノ目的ヲ達スル爲ニ非常ナル障碍ガ起ルノミナラズ、經濟界ニ惡影響ヲ與ヘルノデアリマス、庶民ノ生活其モノニモ惡影響ヲ與ヘルコトニナルノデアリマス、此社債ヤ預金ノ利子、公債ノ利子ノ低利ノモノニ付キマシテ引上ゲマセヌコトハ、金融資本ノ擁護ニアラズシテ、時局ニ必要ナル對策トシテ已ムヲ得ナイ所デアルノデアリマス

次ニ此時局ニ對シテ應分ノ負擔ヲスルコトハ、當然デアリ、而モ其負擔タルヤ下ニ薄ク上ニ厚ク、負擔力ニ於テ公平ナラザルベカラズ、此御說ハ全然御同感デアリマス、

○國務大臣賀屋興宣君(登壇) 御答申上ゲマス、此戰時ノ財政政策ヲ根本的ニ立ツベシト云フ御說デアリマスガ、御尤デアリマス、政府ハ去ル臨時議會ニ提案ヲ致シマシテ御協定ノミナラズ、其遂行ヲ可能ナラシタル基本ノ經濟政策ニ邁進ヲ致シテ居ルモノデアリマス、又銀行預金利子ノ如キハ、是ハ金融狀態ガ緩和致セバ寧ロ引下ノ考^クスル方ガ正當デアルノデアリマス、其上ニ更ニ引下ヲ困難ナラシムルヤウナ課稅ヲ致スコトハ適當デアリマセヌ、是ハ寧ロ國民大衆ノ貯蓄ヲ公債ヲ持チマスコトハ餘リ樂デハナノデアリマス、寧ロ公債金利ヲ水準ト致シマス、後ニ於テ致スベキ所デアルト思フノデアリマス、隨テ預金ニモ課稅ヲ避ケタノデアルト私ハ思フノデアリマス、政

融資本家ト申スヨリモ多數ノ銀行ノ預金者等ニ、此上事實上ノ利息ヲ少ク致シマスル等ニ、此上事實上ノ利息ヲ少ク致シマスルシテ參リマス爲ニハ、多數ノ貯金者——金利ニ致スト云フコトハ、是ハ不可能デアリマシテ、經濟ノ實勢ニ逆行スルモノデアリマシテ、經濟ノ實勢ニ逆行スルモノデアリ

政府ハ其御趣旨ニ副ヒマスルヤウ、成ベク
下ニ薄ク——所得ノ少キ者ニ薄ク、所得ノ
多キ者ニ厚イヤウニ臨時利得税其他物品稅
ニ於テモ、工夫ヲ致シテ居ルノデアリマ
ス、尙ホ此稅制ハ直接稅ニ於テ二億圓、奢
侈稅的ナモノニ於テ六千餘万圓、間接稅的
ノモノニ於テ三千餘万圓デアリマスルコト
ヘ、從來ノ我國ノ增稅等ニ比較致シマシテ
モ、擔稅力ヲ中心トスル觀念ハ深イト申シ
マシテモ決シテ劣レルモノデハナイト考ヘ
ルノデアリマス、尙ホ斯ノ如キ增稅ヲ致ス
コトハ少額所得者ニモ及ブノデアッテ、日本
ノ經濟力ヲ寧ロ低ク「エスチメート」セシム
ルモノデハナイカト云フ御意見デアリマス
ガ、實際技術上ノコトハ總テ物ガ細カイモノ
デアリマス、統制ノ如キモノモ非常ニ細カ
ク所得稅一本ヲ中心ニ立テ、ソレヲ直接間
接補完致シマスル爲ニ色々ノ補完稅トカ、
消費稅トカノ筋道ヲ立テルノデアリマス、
是ハ財政ノ専門家カラ見マシタラ、是ガ故
ニ日本ノ經濟力ハ憐ムベキモノデアルトカ、
或ハ弱イモノデアルトカ云フ考ハ全然起ル
心配ハナイト存ジテ居ルノデアリマス
○副議長(金光庸夫君) 山川賴三郎君
(山川賴三郎君登壇)

大臣ノ御苦心ニハ、深ク感謝スル者デゴザ
イマスガ、茲ニ御尋致シタインオハ、大藏大
臣ハ常ニ我國ノ財力ガ相當ノ實力ヲ持ッテ
居ルト言ハレテ居リマスノニ、三億圓ノ金
ヲ大層ナ手續ヲシテ、租稅增徵ニ俟タナケ
レバナラヌカト云フコトヲ御尋シタインオデ
アリマス、數十億圓ノ歲計カラ見マシタナ
ラバ、三億圓ハ五十歩百歩デアリマス、之
ヲ増稅ニ俟タナイデモ、國家財政上ノ信用
ハ何等影響ガナイト思フノデアリマス、サ
ウシマシテ之ヲ増徵スル爲ニハ、只今上程
ニナツテ居リマスル法案ノ通り、各階級ニ
瓦ツテ殆ド打擊的ナ課稅デアリマス、抑モ政
府ノ增稅ノヤリ方ヲ察知シマスルノニ、曩
ノ第七十一議會ノ增稅一億圓、ソレカラ廳
テ來ルベキ北支事件ノ公債二十五億圓餘ヲ
御見込ニナツテ、其利子額ニ相當スル一億
圓、斯ウ云フノデハナカツタデアリマセウ
カ、今回ノ三億圓ノ中カラ前ノ一億圓ヲ引
イテ、アト二億圓ノ增稅モ、亦一般會計竝
ニ事件費公債發行額ノ五十餘億圓ヲ見込ン
デノ利子額ニ該當スルノデアリマス、即チ
政府ハ非常時局ニ關シテ、セメテ公債ノ利
子ダケナリトモ增稅ニ依ランストルノベ、是
ハ舊式ノ財政理論カラ出發シタモノト解セラ
ル、ノデアリマス、サウシマシテ斯ノ如キ腰タ
メ的デ、徹底セル理論的目標ヲ有ゼル增稅
ヲ執リツ、行ク時ハ、次々ニ第二、第三、
第四ノ增稅モ已ムヲ得ザルコトニナツテ、我
國租稅制度ヲ紊亂セシムルノ結果トナルコ
トハ、火ヲ賭ルヨリモ明デアルト思フノデ
アリマス、故ニ戰時中ハ成ベク財界ニハ動

債ヲ與ヘナイヤウニシ、不足額ノ總テヲ公ノ根本整理ヲ斷行シ、是ト同時ニ増稅ヲ行フコトガ合法的ナヤリ方デアラウト私ハ思惟スルノデアリマス、例ヘバ國民ノ負擔力ガ多少殘ツテ居ルニシタ所ガ、餘裕ガアルニシタ所ガ、之ヲ皆一時ニ取上ゲテシマヘナクテモ、少シハ殘シテ置クコトガ信用ヲ高メル所以デアラウト信ズルノデアリマス、本案所得稅又ハ相續稅ノ如キ隨分苛稅ト思ヒマスガ、上層階級ハ之ヲ忍ビ得ルデアリマセウガ、中層、下層ハ中々重稅デアリマスシテ、是ガ實施ノ上ハ尠カラザル影響ノアルコトト信ズルノデアリマス（拍手）何ガ故ニ斯ル危險ヲ冒シテマデ、一部增稅ノ方途ニ出デラレマシタカラ御伺致ス次第デアリマス

次ニハ所得稅ノ最低額ヲ千圓ニ低下セラレマシタ理由ニ付キマシテ御尋シタイノデアリマス、近時國庫ハ軍需品又ハ重工業方面ニ厖大ナル金ヲ支拂ハレテ居ルカラ、國民一般ニ相當經濟ニ餘裕ガ出來テ居ルト御心得ニナツテ、所得稅ノ最低額ヲ千圓ニマデ引下ゲラレタデアリマセウガ、都市ノ方面ニハ十分擔稅力ガアルト存ジマスガ、私ハ窮乏セル農村ノ實情ニ照シマシテ、其影響ヲ憂フルノデアリマス、時局ノ爲ニ農村ハ財政上何等好イ影響ヲ受ケタコトハナイ、ノミナラズ出征兵ノ應召、又ハ馬匹ノ徵發等ニ依ヅテ、益其度ヲ高メツ、アル貧弱ナル狀態ニ置カレテ居ルコトハ御承知ノコトト思ヒマス、然ルニ僅々年收千圓ノ勤勞所得者ニマデ課稅スルコトハ、貨幣價值低下ノ今日デハ、日露戰爭當時カラ比ヘルト五百圓以下ニ相當シマシテ、農村納稅者ノ

數ヲ激増シ、現在ノ數倍ニ上ルコトハ疑ヲ容レザル所デアリマシテ、是ガ爲ニ中產階級ヲ窮迫沒落セシメ、國民中堅層ヲ失ヒ、思想上淘ニ憂慮ニ堪ヘザルモノガアリ、確ニ是ハ大衆課稅デアリトシテ、所得稅ノ性質ニ背クカト思ヒマスルカラ、最低ヲ千二百圓ニ据置クカ、又ハ農村關係ノ所得ニ對シテハ、特別ノ考慮ヲ拂ズテ免除規定等ヲ設クル必要アリト思ヒマスルガ、之ニ對シテ大臣ノ御答辯ヲ願ヒマス

次ニ御伺シタイノハ山林所得對加算法ニ付テデアリマス、我國ノ山林面積ハ總面積ノ六割以上ヲ占メテ、產業資源ニ重大ナル關係ヲ有スルコトハ、今更申ス迄モナイコトデアリマス、然ルニ從來ヨリ兎角山ノコトヲ閑却スル傾ガアリマス、山ノ租稅ニ付テ見マシテモ、不合理ナ取扱ノ頗ル多イノハ遺憾ニ存ズルガ、茲ニ一二其事ヲ申上ゲデ見マスルニ、所得稅法第二十三條但書ニ、所得ニ付テ其所得ヲ五分シタルト云フ文字ガアリマス、又稅額ハ金額ニ五倍シタルモノヲ以テト云フ五ト云フ字ガアリマス、モウ一ツ詳シク申上ゲマスト、

第二十三條但書中同法第十四條第一項第二ノ所得ニ付テハ「其ノ所得ヲ五分シタル金額ニ對シ此ノ稅率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ五倍シタルモノヲ以テ其ノ稅額トス」此五分ヲ二十分ニ、五倍ヲ二十倍ニ直シテ戴キタイト云フ件デアリマス、其理由トシテハ山林ノ所得ト云ヒマスモノハ雜木林ハ二十年目位、植林ハ四十年カラ六十年目ニ伐採スルノデスカラ、少ク共ニ二十分シテ二十倍スルノガ合法ニ近イト信ズルノデアリマス、森林業者ト云フモノハ愛林觀念カラ國家百年ノ大計ヲ圖ッテ居ラレルノデアリ

マスガ、純眞ナル農民ガ長年月ニ瓦ツテ蓄積シテ來タ勞働所得ニ對シテ課稅スルト云フコトハ、抑々不可ナノデアルト思フノデアリマス(拍手)總テ數十年目ニ收穫シタル果實デアル、數十年掛ッテ出來上ツカ所ノ果實デアルト云フコトヲ認メテ、合法的ナ算出法ニ改メラル、コトガ緊要ナリト思フノデアリマスルガ、之ニ對スル大藏大臣ノ御所見ヲ承リタイノデアリマス

次ニハ山林所得ノ控除ニ付テデアリマス、山ノ人間ダカラ山ノコトバカリ申上ガマスガ、全國山林會聯合會ノ調査ニ依リマスルト、各府縣又ハ稅務署管内毎ニ色々ナ聞伐其他ニ依ツテ控除率ヲ定メラレテ居ルノデアリマスルガ、其實例ニ依ツテ見マスルト、用材主伐ニ付テ全國的ニ見マスルト、同ジ物デ最高ガ八割カラ最低ガ一割五分マデノ差ガアル、薪炭林ニハ最高額ガ九割、最高ガ一割マデアルノデアリマス、竹林ガリマス、又府縣ニ依ツテ非常ナ相違ガ出来テ居ルノデアリマス、千圓ニ賣タ山代ノ中デ九百圓ヲ引イタ百圓ニ稅金ヲ課ケル處ト、千圓ノ山代ノ中デ百圓引イテ九百圓ニ稅金ヲ課ケル處トガ、日本ノ國ノ中ニ同じ物ニアルノデアリマス(拍手)コンナ馬鹿ナ稅ノ課ケ方ガアルモノデアリマスカ、私ハルモノト思ツテ居ツタノデアリマスガ、以上年蓄積シテ來タ勤勞所得デアルカラ、高率ナ控除ヲ認メテ全國的ニ統一ヲ圖ル要アル

答辯ヲ願ヒマス
マダ仰山アリマスルケレドモ、モウ拔キマス、御辛抱ヲ願ウテ居ルノニ濟ミマヌカラ、是モ拔キマス（遠慮スルナ）ト呼フ者アリ）最後ニモウ一ツダケ伺ヒタヽ、ドウゾ御辛抱ヲ願ヒマス、最後ニハ臨時財政補給金ノコトデアリマスガ、是ハ直接デハアリマセヌ、關聯事項デアリマス、此事ハモウ既ニ各處ニ於テ各議員カラ屢々御尋ニナリ、ソレドヽ御答辯ニナシテ居ルコトデアリマスケレドモ、私ハ一寸變ツタ方カラ尋ネテ見タイノデアリマス、中央集権ノ惰勢ハ年々財力ガ中央ニ集中スルカラ、二三年目ニハ何等カノ方法ニ依ッテ之ヲ地方ニ還元シナケレバ農村ハ立行カ又ノデアリマス（拍手）是ハ農村ノ生産物ハ買手ニ依ッテ相場ガ決メラレルノデアリマスガ、農村ノ買フ品物ハ賣ル人ニ依ッテ決メラレルノデアリマス、此矛盾セル所ノ古來カラノ習慣ガ存續スル限り、農村ハ立行カ又コトハ決ツテ居リマスルカラ、中央カラゼングリ／＼金ヲ返シテ貰ハナケレバ、農村ハイカヌヤウニナツテシマフノデアリマス（拍手）從來救濟事業デアルトカ、或ハ七十二議會ノ時デモ負債整理法トカ、其他色々ノ農村ヲ助ケル所ノ法ヲ設ケテ、サウシテ還元ハシテ來ル、何モ知ラズニ還元シテ來ルケレドモ、原理ハ此法ニ依ッテ來ルノデアリマスガ、併シ餘リ結構ナ法ハナカツクガ、完全ナル還元法トシテハ昨年度カラ行ハレタ臨時財政補給金制度デアリマス、是ハ洵ニ完全ナル還元法デアルト私共モ喜ンデ居ルノデアリマス、十三年度ニ於テモ前年度同様一億圓ヲ交付セラル、コトニナツテ居リマスルガ、其

後町村ニ於テハ新ニ歳出ガ増加シ、又歳入ノ缺陷ガ出來ル爲ニ、五千五百万圓バカリノ不足ヲ生ズルコトニナツテ居リマスノデ、何トカ還元法ヲ付ケテ貰ハナケレバナラヌト云フコトニナツテ來タノデアリマス(拍手)更ニ多數ノ應召兵ノ出發ニ際シマシテ、各家庭ニ於テ費消シタル所ノ金ヘ、少クモ一億五千万圓ハ要ツテ居ルノデアリマス、農村ノ經濟ハソレガ爲ニ非常ニ窮迫シテ居ル實情ナノデアリマスカラ、進化ハ死滅、衰ヘ行ク都市體力ノ補充ハ農村デアリマス、農村ハ中堅思想ノ涵養地デアリマス、數多軍人ノ供用地デアリマス(拍手)特ニ今次ノ事變ニ際シマシテモ、都市在住者が其郷里カラ出征シタ者ガ非常ニ多イノデアリマス、眞逆ノ時ニハ皆郷里ニ歸ツテ來ルノデアリマス、戰死者ノ墳墓地デアリマス、傷痍軍人ノ安住地デアリマス、遺家族ノ安住地ナルコト等ヲ思ヒマスルナラバ、單ニ農村問題ニ止マルノデヘナイ(拍手)廣義國防ノ上カラモ、長期持久戰ノ上カラモ、農村ヲ救フノハ現下ノ最大要務デアルコトヲ信ズル者デアリマス(拍手)以上ノ理由ニ依リマシテ町村ノ財政缺陷補填ノ爲ニ、更ニ五千萬圓増額交付ラシテ、農村ヲ救濟セラレンコトヲ希望シテ已マナイ者デアリマス(拍手)ニ瓦ツテ御答辯ヲ御願致シマス(拍手)

カト云フ御尋デアリマスルガ、事變デ増加致シマシタ經常費ヲ經常收入デ賄フコトハ、極メテ適切ト存ジマスルガ、未ダ事變ノ終局ヲ見マセヌノデ、公債ノ利子ニ該當スルヤ否ヤ、是ハ分リ兼ネル次第テアリマス、稅制ノ整理ニ付キマシテハ御說ノ如ク成ベク是ハ早く致シタイト思ツテ居リマス、戰後一時ニ増稅ヲ致シマスルコトハ、是ハ却テ經濟ノ實情ニ副ハナイ點モアリマスルノデ、其點カラモ今回ノ增稅ノ御協賛ヲ得タイト思シテ居ルノデアリマス

國民ニ負擔力ヲ殘セト云フ仰セ、御尤デアリマス、成ベク此點ニモ氣ヲ付ケテ參リタイト思ヒマス、尙ホ千圓ニ所得稅ノ免稅點ヲ引下ゲマシタノハ、國民ノ懷ニ餘裕ガ無アリト申スヨリモ、總テノ國民ニ銃後ノ御奉公ガ、成ベク廣く行波ルヤウニト云フ觀點カラ出發致シタモノデアリマス、山林ノ所得ニ付キマシテハ、御說ノ如ク現行法ニ於キマシテモ、之ヲ相當緩和致ス工夫ハ講ジテアリ、今回ノ増徵率モ他ノモノヨリハ、山林所得ハ結論ニ於テ緩和サレルコトニ相成シテ居ルト思フノデアリマス、尙ホ所得ノ控除率ガ非常ニ差異ガアルト云フ御話デアリマスルガ、是ハ山林ノ位置、運搬ノ狀況、植林樹種等色々ノ事情ガアリマスノデ、ソレゾレ區分ガアルノデアリマス、尙ホ此點ニ付キマシテハ詳細ナコトハ、或ハ委員會ニ於テ御質問ガアリマスレバ申上ゲタ方ガアルノデアリマス

適當ト思ヒマス

臨時財政調整補給金ニ付キマシテハ、極メテ農村ノ爲ニ御熱心ナル御質問デアリマシク、政府モ是ガ増額ニ付テ只今考慮中デ

明瞭ノヤウニ思ヒマシタガ、是ハ又委員會
デ十分同フコトニシマシテ、本日ハ私ノ質
問ハ是デ打切ルコトニ致シマス

○服部崎市君 四案ニ對スル殘餘ノ質疑ハ
他ノ日程ト共ニ延期シ、次會ニ之ヲ繼續ス
ルコトトシ、本日ハ是ニテ散會セラレント

○副議長(金光庸夫君) 服部君提出ノ動議

(矢野庄太郎君演説參照)

所得 1,300 圓

元 本	利 率	所 得 稅	利 子 配 當	地 稟	所 得 稅	計	所 得 稲	額 %
2,700円 33段 一錢一石二升 800円	355	26	52	0	78	6.0		

元 本	利 率	所 得 稅	利 子 配 當	地 稟	所 得 稲	計	所 得 稲	額 %
2,700円 33段 一錢一石二升 800円	355	26	52	0	78	6.0		

今、土地ト公債ト社債ニ付キ同一所得

ノ場合、即チ公債ニヨル所得年一千三
百圓、土地ニヨル所得モ、社債ニヨル所
得モ同ジク一千三百圓トシ、コノ場合何
レガ税負擔加重イカ、又輕イカラ比較シ
テミルニ、

土地ニ於テハ年一千三百圓ノ所得ヲ得
ルモノハ、米價三十三圓、一段一石二斗
ノ年貢トスレバ約三町三段、一段八百圓
トシテ約二万七千圓ノ所有者デアル、シ
カシ土地所有者ニ對スル地租ノ賦課ヘ賃
賃價格ニ對シテアルカラ一千三百圓

様式ノ例

稅 種	本 稅	稅 率	附 加 稅 率	本 稅 附 加	摘 要
基本法臨時増徵法事變法合計	府 縣 市 頭 村 合 計				(制限率、免役點、控除率、其他計算上必要 ナル事項ヲ記載)

ヲ、本年度カラ實施スル賃價格基準米
價一石二十二圓ニ改訂スルト八百八十圓
トナリ、地租ハコレニ對シテ課セラレ
ル、而シテ地租ノ稅率ハ百分ノ三・八、
ハ團體等デアル、シカルニ土地ヲ持ツモ
ノハ殆ド田舎ニ住ンデ居リ、大部分ハ貧

ニ圓)トナル
以上ノ例ニヨルト社債ガ一番重ク、次
ニ土地公債トシフ順ニナッテハキルガ、
シカシ社債ヲ持ツモノハ、大部分都會ニ
住ミ、而モ多ク金融機關、保險會社、又
ハ團體等デアル、シカルニ土地ヲ持ツモ

ハ租稅計算表(例ヘバ第一種所得稅ニ於テ
ハ基本法、臨時增徵法、事變法ヲ加ヘテ本
稅ノ稅率ハ幾何、尙コレニ、十二年度豫
算ニヨリ實際上ノ附加稅率、——交附金
配分ニヨル減少ヲモ含メテ——又ハ制限
率ヲ加ヘタルモノノ如キヲ稅種別ニ)ヲ
發表サレ度シ

弱ナ中小地主デアル、サレバ土地所有者
ハ、コノ上ニ重イ戸數割ヲ賦課サレルノ
デ、結局實際上ハ未ダ土地所有者ノ方ガ
證券所有者ヨリ重課サレテ居ルノデア
ル

ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ〕

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次會ノ
議事日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本
日ハ是ニテ散會致シマス

午後五時五分散會

衆議院議事速記錄第四號中正誤

三九頁三段一二行ノ次ニ左ノ五行ヲ加フ
一去一月二十二日 部長補國選舉ノ結果左ノ如シ

第五部

部長

賴母木桂吉君（部長飯塚春太郎君補
闕）

衆議院議事速記錄第十二號中

正誤

頁 段 行 誤 正

三三 四 一三 三割一分 二割二分

同 同 同 苦吉利 英吉利

衆議院議事速記錄第十三號中

正誤

頁 段 行 誤 正

三八 三 一二 一港灣修築 港灣漁港修築

二五七 二 三四一三五 單ナル、プロ 單ナル「プロ
レタリヤ」